

科目名	経営学基礎		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営の入門講座として経営の基礎理論と基礎概念を習得することをねらいとする。

企業とは、私たちの生活に必要な商品やサービスを生産し社会に供給することを目的とした、現代社会における大きな社会的発明である。商品やサービスの生産活動は、政府や地方自治体、財団や社団といった非営利法人、さらには個人によっても行われている。しかしながら、それら商品やサービスの生産セクターの内で、最も効果的かつ効率的に生産活動を行うことができるのが企業という仕組みである。

本講座では、企業とはどのような仕組みや構造になっており、また、どのようなメカニズムで運営されているのかについて、初心者が理解できるようわかりやすく解説する。

本講座を履修することにより、経営で取り上げられる諸テーマに関し、それらの経営管理体系における位置づけや相互の関連性が理解できるようになり、その後における、経営管理論や企業戦略論等、経営に関する基幹・関連科目の修得や理解が容易となるよう配慮する。

内容

本講座では、まず、市場や商品について学び、次に、企業と現代社会との関わりについて解説し、現代社会における企業の役割について理解する。企業の法的形態、企業と社会や環境との関わり、企業統治、企業の社会的責任等について論説する。

次に、実際の企業活動に関し、研究開発・生産・マーケティング等企業における価値創出活動に関する機能マネジメント、また、人材・財務・知識/情報といった諸経営資源に関するマネジメント、さらに、企業組織のマネジメントについて解説を行い、企業の日々営む業務の内容を理解できるようにする。

また、それらのマネジメントを実施する上で重要な管理手段である、企業会計、すなわち、財務会計や管理会計について、その概念、それらの仕組みや構造について解説を行うことにより、経営と企業会計との関連性を明らかにする。これにより、経営という観点から会計の意義やその仕組みを理解することになり、以後の会計に関する基幹・関連科目の理解が容易になる。

21世紀には情報化とグローバル化が限りなく進展し、社会は工業化社会から知識情報化社会へと大きく構造的変化を遂げる。現在の経済的環境の大変化はその第一段階である。この渦中において、企業の発展と生き残りをかけた行動を経営戦略論として取り上げる。経営戦略論では、基本的な戦略策定プロセスやその技法について解説し、昨今の企業行動の意味を理解する。

評価

本講座における評価方法は、期末試験(50点)、授業態度(10点)、小テスト及び小レポート提出(40点)とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】『ゼミナール経営学入門第3版』伊丹敬之/加護野忠男 著 日本経済新聞社 335.1/1

科目名	ビジネス経済学		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

体系的な経済理論の学習ではなく、経済学における考え方を中心に学習する。

また、現実のビジネスの現場でも必要とされるような実用的な知識の習得を図ることをねらいとする。

内容

経済学の基本的な考え方を理解するために、下記の項目を中心に扱う。

1. 経済学の考え方
2. ミクロ経済学とマクロ経済学
3. 市場経済とパレート最適
4. 政府の役割
5. 景気対策とケインズ経済学
6. 財政赤字と社会保障
7. 金融危機
8. 外国為替市場と経済
9. 株式会社の経営形態

上記の他に、その時々で話題となっているテーマを取り扱う。

評価

出席20%、小テスト20%、学期末に行われるレポート60%。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】八田達夫『ミクロ経済学』東洋経済新報社、2008年。

八田達夫『ミクロ経済学』東洋経済新報社、2009年。

諸富徹『ヒューマニティーズ 経済学』岩波書店、2009年。

科目名	統計学基礎		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ビジネスにおいては、データを処理して、そこから何らかの結論を導くという統計学的なプロセスは、すべての学生、社会人に必要なことである。数学的には高度な内容を含む統計学は、必ずしも万人になじめるものではなかったが、パソコンが普及したことで、誰にでも使える手法になってきた。そこで、本講義では、パソコンによる統計処理を学習する。

簡単なデータの処理からはじまり、データのグラフ化、確率、推定、検定、分析などすべて、主としてエクセルを使うパソコンでの演習形式で授業を進める。エクセルでの方法を学ぶとともに、なぜその方法が必要なのかに重点をおいて講義・演習する。

内容

パソコンを操作しながら、統計学の基本を理解していくことを方針とする。毎回、はじめに演習の目的と内容を説明する。その後、課題に取り組む。

授業では次の内容を扱う予定である。

- エクセルの使い方
- 基本統計量
- 度数分布とヒストグラム
- 散布図と相関係数
- 推定と検定
- 回帰分析
- 分散分析

評価

1) 出席状況 30% 2) 課題の提出状況 30% 3) テスト40%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】白砂堤津耶『初歩からの計量経済学 第2版』日本評論社、2007年。331.19/S
 向後千春他『統計学がわかる』技術評論社、2007年。417/K
 橋本紀子他編著『Excelで始める経済統計データの分析』2009年。

科目名	経営情報システム		
担当教員名	小笠原 富美子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 企業経営と情報システムの関連性について理解する。
2. 経営戦略の立案手法を学習し、経営戦略から具体的に情報システムに落とし込むプロセスを学習する。
3. 情報システムを活用するための基礎知識及びシステム設計の基礎知識を身につけることを目標とする。

内容

講義および演習方式で進めていく。具体事例を取り上げながら、身近なものとして理解できるよう講義、演習を進める。

1. ガイダンス 女性が資格を持って働く意義を考える。
2. 情報化社会と情報ビジネス
3. 経営戦略と情報化
4. 経営戦略策定(演習) SWOT分析 他
5. 情報化構想・情報化企画・情報化計画
6. 情報化資源調達 RFP作成 他
7. 情報システムの開発(演習) ホームページ作成 他
8. まとめ

評価

途中で、理解度の確認のため中間試験を行う。

評価は、出席(授業態度含む)、中間試験、期末試験、課題レポートを4:2:3:1の割合で配分し、総合して行う。出席日数の基準を満たし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 使用せず。

【推薦書】

1. 『情報管理実務』 情報管理研究会監修 内山 力、三浦 智恵子著 産能大学出版部 336.1/J

【参考図書】

1. 『情報化リーダー養成テキスト』-戦略的な情報化推進のために- 独立行政法人情報処理推進機構
2. 『ITコーディネータ実践の手引き』 小山 仁、井上正和著 同友館
3. 『ビジュアルIT活用の実際』 内山 力著 日本経済新聞社
4. 『戦略プロフェッショナル』 三枝 匡著 日本経済新聞社

科目名	会計学基礎		
担当教員名	水野 光造		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「会計学基礎」では、以下のことを学ぶことを目的としています。

1. 複式簿記を基礎にして、世の中に生起する経済事象を複眼的に捉えるものの見方や考え方を学びます。
2. 財務諸表(貸借対照表、損益計算書)の仕組みを学びます。
3. 関連法規(会社法、金融商品取引法など)を学びます。
4. 会計学固有の表現を学びます。

内容

「会計学基礎」の内容は、おおむね以下のような構成によって進めます。

1. 簿記入門者が企業会計の意味と内容を理解できるように、どのような仕組みや制度にもとづいて行なわれているかについて学びます。
2. 企業の財政状態をあらわすために作成される貸借対照表に記載される資産・負債・純資産は、どのように分類、作成されているのか、また評価されるのかについて学びます。
3. 企業の経営成績をあらわすために作成される損益計算書に記載される収益と費用、利益と損失は、どのような基準で分類され、作成されているのかについて学びます。

評価

出席40点及びペーパーテスト60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『女子大生会計士の事件簿 世界一やさしい会計の本です』 山田真哉著 日本実業出版社

科目名	簿記演習 1 基礎		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目の目的は、簿記の基礎的な原理をいろいろな問題を解くことによって習得することである。基礎的な商業簿記原理及び記帳、決算等に関する初歩的実務を理解することである。そして最終的な目標として日商簿記検定3級を狙う。

内容

簿記の場合は入り口のところがとても大事である。そこでつまづかないように、入り口のところをスムーズに入れるように配慮して、きめ細かく懇切丁寧に指導・解説していきたい。また徹底的に理解が得られるまで何回も繰り返し問題を解いていくことにする。鉛筆・ペンを使って計算・作表などを何回もやってみることがなんとと言っても上達の近道である。「簿記特有の考え方」を出来るだけ早くマスターできるようにしたいと思っている。換言すれば、それは「複式簿記の考え方」といってもよいが、単純に金銭の収支を記録計算することを主眼とする単式簿記との違いを意識しながら最初はやっていきたい。複式簿記では企業の資産、負債及び資本の変化を記録するばかりでなく、費用及び収益についても漏れなく記録する。しかも一定の記帳原則のもとに組織的に行っている。そのこのところの技術を学んでいくようにしたい。

1. 簿記の目的とその基礎概念
2. 資産・負債・資本と貸借対照表
3. 収益・費用と損益計算書
4. 取引の意味と種類
5. 勘定科目の意義と勘定記入の方法
6. 仕訳の仕方と勘定科目への記入
7. 帳簿の種類、仕訳帳への記入と総勘定元帳への転記
8. 現金過不足と小口現金、当座預金と当座借越
9. 商品売買と商品勘定
10. 仕入帳・売上帳・商品有高帳への記入
11. 売掛金・買掛金と元帳への記入
12. その他の債権
13. その他の債務
14. 試算表の意義とその作成

評価

出席(30%)及び期末試験(70%)を総合し評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】：『新検定簿記講義3級(商業簿記)』 加古宣士/渡部裕巨 中央経済社

科目名	簿記演習 1 応用		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目の目的は、「簿記演習1 基礎」における内容を理解していることを前提にして、さらに簿記の基礎的な原理をいろいろな問題を解くことによって習得することである。基礎的な商業簿記原理及び記帳、決算等に関する初歩的実務を理解することである。そして最終的な目標として日商簿記検定3級を狙う。

内容

簿記の場合は入り口のところがとても大事である。そこでつまづかないように、入り口のところをスムーズに入れるように配慮して、きめ細かく懇切丁寧に指導・解説していきたい。また徹底的に理解が得られるまで何回も繰り返し問題を解いていくことにする。鉛筆・ペンを使って計算・作表などを何回もやってみることがなんとと言っても上達の近道である。「簿記特有の考え方」を出来るだけ早くマスターできるようにしたいと思っている。換言すれば、それは「複式簿記の考え方」といってもよいが、単純に金銭の収支を記録計算することを主眼とする単式簿記との違いを意識しながら最初はやっていきたい。複式簿記では企業の資産、負債及び資本の変化を記録するばかりでなく、費用及び収益についても漏れなく記録する。しかも一定の記帳原則のもとに組織的に行っている。そのこのところの技術を学んでいくようにしたい。

1. 手形取引と手形記入帳への記入
2. 手形の裏書譲渡と割引、手形貸付金と手形借入金
3. 有価証券の取得・売却
4. 有価証券の評価
5. 固定資産の取得・売却
6. 固定資産の修繕・減価償却
7. 資本金と引出金
8. 収益と費用の種類、収益と費用の見越し・繰延べ
9. 費用となる税金、費用とならない税金
10. 仕訳帳と伝票、伝票から帳簿への記入
11. 決算修正事項と決算修正仕訳、精算表の作成
12. 決算振替手続と元帳の締め切り
13. 貸借対照表の作成
14. 損益計算書の作成

評価

出席(30%)及び期末試験(70%)を総合し評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】：『新検定簿記講義3級(商業簿記)』 加古宣士/渡部裕亘 中央経済社

科目名	簿記演習 2 基礎		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目の目的は、簿記の基礎的な理解を得た人たちが、その能力をさらに一段と高めることができるようにすることであり、また企業の即戦力としての期待にこたえられるようにすることである。そして最終的な目標として日商簿記検定 2 級を狙う。

内容

簿記演習2 は簿記演習1 に比べて、出題範囲が広がっているほか、同じ出題範囲のところでもいっそう高度な処理が加わっているため、応用力が問われることにもなっている。簿記の最終成果物といえば、それは企業の財政状態を表す貸借対照表と企業の経営成績を表す損益計算書である。したがってこの貸借対照表と損益計算書を意識しながら問題を解いていくことが重要であるため、そのことを授業の進め方としては中心においていきたい。一つ一つの問題を解くに当たっては、貸借対照表との関連及び損益計算書との関連を常に考えるようにしていきたい。また企業の即戦力ということを考えて、やはり実務のことも重要視した授業内容にしたいとも考えている。

1. 当座預金と当座借越、銀行勘定調整表の作成
2. 有価証券の売買・評価・貸借
3. 有価証券の貸借、差入れ、預り、保管
4. 債権債務取引、債務の保証、未決算勘定
5. 為替手形の振出、手形の裏書・割引
6. 手形の更改、不渡り手形、荷為替手形
7. 貸倒引当金、修繕引当金、退職給付引当金
8. 商品勘定と売上原価の計算、棚卸減耗、商品評価損
9. 未着品取引、委託販売・受託販売、
10. 割賦販売、試用販売・予約販売
11. 有形固定資産の取得、減価償却、有形固定資産の売却・除却
12. 無形固定資産、投資その他
13. 販売費、一般管理費
14. 営業外収益、営業外費用

評価

出席(30%)及び期末試験(70%)を総合し評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】：『新検定簿記講義 2 級(商業簿記)』 加古宣士/渡部裕亘 中央経済社

科目名	簿記演習 2 応用		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目の目的は、「簿記演習2 基礎」における基本的な内容を理解した人たちが、その能力をさらに一段と高めることが出来るようにすることであり、また企業の即戦力としての期待にこたえられるようにすることである。そして最終的な目標として日商簿記検定2級を狙う。

内容

簿記演習2 は簿記演習1 に比べて、出題範囲が広がっているほか、同じ出題範囲のところでもいっそう高度な処理が加わっているため、応用力が問われることにもなっている。簿記の最終成果物といえば、それは企業の財政状態を表す貸借対照表と企業の経営成績を表す損益計算書である。したがってこの貸借対照表と損益計算書を意識しながら問題を解いていくことが重要であるため、そのことを授業の進め方としては中心においていきたい。一つ一つの問題を解くに当たっては、貸借対照表との関連及び損益計算書との関連を常に考えるようにしていきたい。また企業の即戦力ということを考慮すれば、やはり実務のことも重要視した授業内容にしたいとも考えている。

1. 株式会社の資本金、増資、減資
2. 剰余金、法定準備金、任意積立金、利益の処分
3. 会社の合併、吸収合併、新設合併
4. 社債の発行、社債発行費、社債発行差金、社債の償還
5. 法人税等の記帳、消費税の記帳
6. 試算表の作成、決算修正事項・決算修正仕訳、精算表の作成
7. 決算振替手続と元帳の締め切り
8. 損益計算書と貸借対照表の作成
9. 本店集中会計制度と支店独立会計制度
10. 未達事項の整理と内部利益の除去
11. 単一仕訳帳制と特殊仕訳帳制
12. 特殊仕訳帳制の記帳と転記
13. 伝票式会計
14. 伝票と日計表

評価

出席(30%)及び期末試験(70%)を総合し評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】：『新検定簿記講義2級(商業簿記)』 加古宣士/渡部裕亘 中央経済社

科目名	経営のためのデータ解析		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目では、「経営のためのデータ解析」で学んだ統計解析の基礎をベースとして、ビジネスの現場で最も活用され、マーケティングリサーチの基礎となる「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel を用いた演習を通して学習する。またインターネットから必要なデータをダウンロードして分析を行う手法を学ぶ。

内容

1. 二乗検定(1) 適合度の検定
2. 二乗検定(2) 独立性の検定
3. 二乗検定の応用問題
4. 平均の差の検定について・t分布とF分布
5. 2群の母平均の差の検定(1) 等分散を仮定したt検定
6. 2群の母平均の差の検定(2) 分散が異なる場合を仮定したt検定
7. 対応のあるデータの差のt検定
8. t検定の応用問題
9. 分散分析の基礎
10. 分散分析(一元配置)
11. 分散分析(繰り返しのない二元配置)
12. 分散分析の応用問題
13. インターネット上のデータ分析(1)
14. インターネット上のデータ分析(2)
15. 最終試験

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 出席状況(30%)
2. 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『図解でわかる統計解析』前野正弘、三國 彰 著(日本実業出版社)

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

【参考図書】『Excel によるやさしいデータ解析例』玉置友一 著(青山社)

科目名	経営のためのデータ解析		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目では、「経営のためのデータ解析」で学んだ統計解析の基礎をベースとして、ビジネスの現場で最も活用され、マーケティングリサーチの基礎となる「仮説検定」ならびに「分散分析」の手法について、Excel を用いた演習を通して学習する。またインターネットから必要なデータをダウンロードして分析を行う手法を学ぶ。

内容

1. 二乗検定(1) 適合度の検定
2. 二乗検定(2) 独立性の検定
3. 二乗検定の応用問題
4. 平均の差の検定について・t分布とF分布
5. 2群の母平均の差の検定(1) 等分散を仮定したt検定
6. 2群の母平均の差の検定(2) 分散が異なる場合を仮定したt検定
7. 対応のあるデータの差のt検定
8. t検定の応用問題
9. 分散分析の基礎
10. 分散分析(一元配置)
11. 分散分析(繰り返しのない二元配置)
12. 分散分析の応用問題
13. インターネット上のデータ分析(1)
14. インターネット上のデータ分析(2)
15. 最終試験

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

1. 出席状況(30%)
2. 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『図解でわかる統計解析』前野正弘、三國 彰 著(日本実業出版社)

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

【参考図書】『Excel によるやさしいデータ解析例』玉置友一 著(青山社)

科目名	需要予測とシミュレーション		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会においては、過去のデータに基づいて、予測モデルを作成し、そのモデルに基づいたシミュレーションを実施することによって、不利益を最小限に抑えた効率の良い運用が可能となるような現象が多数存在している。条件を変化させることにより、最も最適な運用方法を見つけ出すことがシミュレーションの目的である。

本科目ではビジネスの現場で求められるシミュレーションの基礎知識と技術を、Excelを用いた演習を通して学習していく。

内容

- 1 需要予測とは・時系列分析の基礎
- 2 移動平均法
- 3 指数平滑法(1)
- 4 指数平滑法(2)
- 5 定期預金の予測(1)
- 6 定期預金の予測(2)
- 7 回帰モデル・最小二乗法
- 8 普及モデル・反復購買モデル
- 9 外貨預金シミュレーション(1)
- 10 外貨預金シミュレーション(2)
- 11 A B C分析
- 12 ポジショニング分析
- 13 P P M分析
- 14 P P M分析(2)
- 15 まとめと復習

評価

評価は、以下の3点を総合して行う

- 1 . 出席状況(30%)
- 2 . 課題の提出状況と達成度(20%)
- 3 . 最終課題の達成度(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】『Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ シミュレーション』荒木 勉・栗原和夫著(実教出版)

『Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ 需要予測』荒木 勉著(実教出版) 336.1/E/1

科目名	経営データベース管理		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ネットワークの普及とともにデータベースを利用する機会が増えています。身近なところでは、Excel やアクセスでの住所録の管理にデータベースが使われています。古くは銀行のシステムや図書館情報システムで、最近では、音楽配信や旅行検索、ネットショッピングのシステムを構築するのにデータベースは欠かせなくなっています。更に、最近では、インターネットで検索できる全てのデータを1つの大きなデータベースと見て検索できるように、世界的な基準作りが行われています。これらの大量のデータを高速に間違いなく、容易に、安全に利用するために、データベース管理システムにはどのような技術が工夫されているかを理解する授業です。

2年生以降のデータベース関連授業の基礎となる授業です。

内容

前半はAccess を使い簡単なデータベースを作成する。その作成したデータベースでデータ管理システムの技術的な工夫について実際に確認しながら後半は講義中心の授業を進める。

1. データベースとは(1時間)
2. Access による簡単なデータベースの作成演習(6時間)
3. Access の総合演習課題(1時間)
4. リレーショナル代数(2時間)(和演算、差演算、積演算、商演算、選択演算、射影演算、演算、結合演算)
5. DBMS(4時間)(正規化、整合性、排他制御、障害回復、トランザクション処理)
6. テスト(1時間)

評価

授業中に出す演習課題(40点)と総合課題(20点)とテスト(40点)の成績で評価し、60点以上を合格とする。出席点は特に考えないが授業終了時に課題を提出してもらうために、出席しないと評価は悪くなる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】『基本情報処理技術者プラスアルファ データベースとアルゴリズム』平井利明 実教出版

『情報処理基礎講座 改訂ファイルとデータベース』電子開発学園出版局

教科書は授業開始時に指定する。

科目名	経営データベース管理		
担当教員名	泉 直子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ネットワークの普及とともにデータベースを利用する機会が増えています。身近なところでは、Excel やアクセスでの住所録の管理にデータベースが使われています。古くは銀行のシステムや図書館情報システムで、最近では、音楽配信や旅行検索、ネットショッピングのシステムを構築するのにデータベースは欠かせなくなっています。更に、最近では、インターネットで検索できる全てのデータを1つの大きなデータベースと見て検索できるように、世界的な基準作りが行われています。これらの大量のデータを高速に間違いなく、容易に、安全に利用するために、データベース管理システムにはどのような技術が工夫されているかを理解する授業です。

2年生以降のデータベース関連授業の基礎となる授業です。

内容

前半はAccess を使い簡単なデータベースを作成する。その作成したデータベースでデータ管理システムの技術的な工夫について実際に確認しながら後半は講義中心の授業を進める。

1. データベースとは(1時間)
2. Access による簡単なデータベースの作成演習(6時間)
3. Access の総合演習課題(1時間)
4. リレーショナル代数(2時間)(和演算、差演算、積演算、商演算、選択演算、射影演算、演算、結合演算)
5. DBMS(4時間)(正規化、整合性、排他制御、障害回復、トランザクション処理)
6. テスト(1時間)

評価

授業中に出す演習課題(40点)と総合課題(20点)とテスト(40点)の成績で評価し、60点以上を合格とする。出席点は特に考えないが授業終了時に課題を提出してもらうために、出席しないと評価は悪くなる。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書】『基本情報処理技術者プラスアルファ データベースとアルゴリズム』平井利明 実教出版

『情報処理基礎講座 改訂ファイルとデータベース』電子開発学園出版局

教科書は授業開始時に指定する。

科目名	インターネットビジネス		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターネット上での様々な経済取引が拡大している。そこで、本講義では、インターネット上での取引に関する問題を幅広く取り上げることとする。インターネットの仕組みや歴史からスタートさせ、インフラ系の事業からインターネット上のショップ、そして企業間取引までの問題を幅広く扱う。

また、インターネットを巡る諸問題についても扱う。

内容

下記のテーマについて取り上げる。

1. インターネットの歴史と仕組み
2. 情報通信産業の規制緩和
3. 認証システムと暗号化
6. ユビキタス社会
7. SNSと動画配信
8. 検索サイト
9. インターネットのショッピングサイト

評価

1. 出席20% 2. 毎回の課題 20% 3. レポート 60%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】授業で指示する。

科目名	情報倫理		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスコミ4媒体の時代から驚異的な普及を続けるインターネット中心の時代に移り、仕事も研究も私生活もその条件や環境は一変した。

しかし、「情報」が重要であることには変わりはなく、むしろ重要度は高まっているにもかかわらず、個々の情報を見てもみると、まさに玉石混交である。そうした現代を生きる私たちは混沌とした情報社会の中で真に必要な情報を選び、間違いやトラブルからいかに自らを守るかが問われている。

授業では、情報を発信出来た(出来る)のはメディア企業だけでなく、私たち個人にもそれが可能になった現実を踏まえ、情報発信から情報の受信と(再)利用の過程で企業も個人も守り、気をつけなければならないルール=倫理について考える。

内容

授業では「新聞」「出版」「放送(=ラジオ・テレビ)」「インターネット」の4分野について、倫理上の問題を検証する。

イントロダクション

現代社会と情報

情報社会の特徴と情報の信ぴょう性

情報公開と個人情報の保護

インターネットと人権

表現の自由と制約

名誉毀損/プライバシーの侵害と保護

報道/放送被害と救済

匿名発表&匿名報道と無責任社会

少年犯罪&精神障害者事件と報道

情報源の秘匿

戦争報道ガイドライン

テレビ番組基準

編集権

まとめ

評価

期末レポート=60点、ミニレポート=20点、出席=20点 計100点 うち60点で合格

ミニレポートとは、毎回の授業終了前10分~15分で受講生の理解度を把握するために行う一種のリアクション・ペーパーである。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

随時紹介する。

科目名	ビジネスと女性		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

かつては女性に門戸を閉ざしていたようなビジネスの場であっても、これから急速に活躍の機会が開けてくる。昨今の産業構造や社会構造の大変化を反映して、女性にもビジネス社会を構成する同等のメンバーとして大きな期待が寄せられている。本講座は、ビジネス実践の原理原則について学ぶことを通して、ビジネス社会における人間の生き方を理解する。また、ビジネスの場において、女性の持つ可能性と直面する課題についての検討を行う。就職や就業等、これからビジネスと関わりを持つ女子学生に対し、各自のキャリア構築に際しての示唆を与えることを目的とする。

授業では、人生において重要な意味を持つ「お金」というものの意味を考え、次に、ビジネスの実践とは具体的にいかなることか、また、就職や起業を通してビジネスの場で自己の可能性をいかに発見していくのかについて学ぶ。

「ビジネスと女性」を履修することにより、経営、情報、会計といった分野における学習への内面的動機の形成を促すと共に、さらに、ビジネスの実践的研究を踏まえ、経営に関する基幹・関連科目の理解が容易になるよう配慮する。

内容

本講義においては、まず、経済社会における最重要ファクターである「お金」について学ぶ。「お金」についての人々の考え方や態度、「お金」の持つ魅力と魔力、金利等について学び、「お金」との健全な関わり方について考える。次に、ビジネス実践の基本的理解のために、ビジネスの構成要素、ビジネスモデル、ビジネスにおける心理的要素、現代社会におけるビジネスや企業の意義、現代ビジネスの病理的側面、21世紀におけるビジネスのあり方について学ぶ。そして、最後に、新しい時代に、ビジネス社会や企業内で女性は人材としてどのように位置づけられ、かつ、どのような役割を果たすのかについて理解し、起業や就職等キャリア形成について考える。

講義を通じ、これからのキャリア構築にあたって、女性特有の課題、また、それら課題解決の視点と方法論について検討を行ない、解説を加える。そして、現代社会における女性の多様な選択肢を踏まえ、女性達がトータルな人間性/能力を発揮しながら、自らの社会的位置づけをいかにポジティブに構築していくかについて、また、ビジネスや仕事を通して自己実現を図るためにはいかなる要素や条件が必要かについて解説し、ビジネス社会におけるこれからの女性のライフデザインのあり方について理解する。

評価

本講座における評価方法は、期末テスト(50点)授業態度(10点)小テスト及び小レポート提出(40点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業において適時講義に関連するレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	ビジネスと女性		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

かつては女性に門戸を閉ざしていたようなビジネスの場であっても、これから急速に活躍の機会が開けてくる。昨今の産業構造や社会構造の大変化を反映して、女性にもビジネス社会を構成する同等のメンバーとして大きな期待が寄せられている。本講座は、ビジネス実践の原理原則について学ぶことを通して、ビジネス社会における人間の生き方を理解する。また、ビジネスの場において、女性の持つ可能性と直面する課題についての検討を行う。就職や就業等、これからビジネスと関わりを持つ女子学生に対し、各自のキャリア構築に際しての示唆を与えることを目的とする。

授業では、人生において重要な意味を持つ「お金」というものの意味を考え、次に、ビジネスの実践とは具体的にいかなることか、また、就職や起業を通してビジネスの場で自己の可能性をいかに発見していくのかについて学ぶ。

「ビジネスと女性」を履修することにより、経営、情報、会計といった分野における学習への内面的動機の形成を促すと共に、さらに、ビジネスの実践的研究を踏まえ、経営に関する基幹・関連科目の理解が容易になるよう配慮する。

内容

本講義においては、まず、経済社会における最重要ファクターである「お金」について学ぶ。「お金」についての人々の考え方や態度、「お金」の持つ魅力と魔力、金利等について学び、「お金」との健全な関わり方について考える。次に、ビジネス実践の基本的理解のために、ビジネスの構成要素、ビジネスモデル、ビジネスにおける心理的要素、現代社会におけるビジネスや企業の意義、現代ビジネスの病的側面、21世紀におけるビジネスのあり方について学ぶ。そして、最後に、新しい時代に、ビジネス社会や企業内で女性は人材としてどのように位置づけられ、かつ、どのような役割を果たすのかについて理解し、起業や就職等キャリア形成について考える。

講義を通じ、これからのキャリア構築にあたって、女性特有の課題、また、それら課題解決の視点と方法論について検討を行ない、解説を加える。そして、現代社会における女性の多様な選択肢を踏まえ、女性達がトータルな人間性/能力を発揮しながら、自らの社会的位置づけをいかにポジティブに構築していくかについて、また、ビジネスや仕事を通して自己実現を図るためにはいかなる要素や条件が必要かについて解説し、ビジネス社会におけるこれからの女性のライフデザインのあり方について理解する。

評価

本講座における評価方法は、期末テスト(50点)授業態度(10点)小テスト及び小レポート提出(40点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業において適時講義に関連するレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	企業戦略論		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

企業は、自らが生産した商品を、市場において消費者や顧客に販売し利益を得ることによって、事業活動を継続する。しかし、市場において競争相手に打ち勝たなければ、顧客を失い販売金額が減少し、損失が発生する。そして、そのような赤字経営が続けば、企業は倒産し消滅せざるを得ない。このように、企業は、強いものが生き残り弱いものが消滅するという、市場の厳しい生存競争にさらされている。資本主義経済においては、このような淘汰のプロセスが、経済にダイナミズムをもたらし、経済の活性化を促している。

戦略は戦争における敵に勝つための総合的な方法論・技術論である。企業戦略は、市場における競争を企業間戦争と捉え、企業がいかに競争相手と戦いいかに勝ち残るかという技術論であり方法論である。本講座では、経営学の基礎的学習からさらに一歩進め、管理から経営へ、経営から戦略へと続いてきた経営理論の流れをたどることにより現代の戦略経営についてその背景を理解すると同時に、いろいろな戦略論についてその内容と意義を学ぶ。

内容

実際の企業運営は、ビジネス、マネジメント、ゴール(目的)という三つの要素によって規定される。そして、それら三つの要素の特性、並びに、組み合わせによって、企業戦略の特徴が表れる。ビジネスとは、いかに価値ある商品を製造し販売するかについての活動であり、それはまた、市場においてどのように有利な戦略的ポジションを構築するかについての議論である。マネジメントとは、現在の企業モデルの効果的・効率的な運用を目指すと同時に、未来志向の新たなモデルを設計・構築していくかという、経営資源についての議論である。また、ゴールとは、経営理念や経営哲学から出発し、ビジョン・ミッションという経営目的や経営目標に至る目標体系についての議論である。ゴールは、希求する企業の姿を実現するために、日々のビジネス行動やマネジメント活動を貫徹する企業の意味である。

本講座においては、経営戦略論として三つの要素に関し、事業戦略レベルとして商品/市場競争戦略、機能戦略レベルとしてインフラ戦略、全社戦略レベルとして成長戦略について学ぶ。また、上記要素と関連して戦略論の主要なアプローチ、すなわち、ポジショニング・アプローチ、資源・アプローチ、ゲーム・アプローチ、学習アプローチ等について学習する。

評価

本講座における評価方法は、期末テスト(50点)、授業態度(10点)、小テスト及び小レポート提出(40点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

講義において関連するレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

【推薦書】『ゼミナール経営学入門第3版』伊丹敬之/加護野忠雄 著 日本経済新聞社 335.1/1

科目名	運営管理論		
担当教員名	神林 靖		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営科学の基本的な考え方と分析方法を学習する。コンピュータの発達が著しい今日、組織体における運営上の意思決定や情報処理に、経営科学は重要度を増している。これから実業界での活躍を志すみなさんにとって経営科学の基礎知識は不可欠である。経営科学とは、経営上の問題を解決するために、問題の要因とそれらの関係を特定して数学モデルを構築してから、そのモデルから導かれる解を現実の問題解決に役立てようとするものである。

本講義では、統計学の復習から始めて、時系列分析と回帰分析による需要予測、在庫問題、線形計画法、待ち行列とシミュレーションなどについてExcelを用いて理解できるようにする。Excelの使用方法を学ぶのではなく、Excelを道具として経営科学の本質を理解するのが目的である。講義に加えてExcelでの演習を課すことで、典型的な問題の解決方法を自らコンピュータを用いて答えを出せるようになることを目標とする。

内容

- 1) 企業運営と経営科学(経営科学の必要性と経営科学による問題解決)
- 2) 統計学復習(1)度数分布
- 3) 統計学復習(2)統計的推測と検定
- 4) 時系列分析
- 5) 回帰分析と需要予測
- 6) Excelによる実習
- 7) 在庫管理
- 8) Excelによる実習
- 9) 線形計画法(1)グラフによる理解
- 10) 線形計画法(2)シンプレックス法
- 11) 日程計画
- 12) 待ち行列問題の基本構造
- 13) 待ち行列理論
- 14) シミュレーション
- 15) Excelによる実習

評価

- 1) 受講態度(演習) 30%
- 2) 課題の提出(レポート) 70%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】宮川公男, 入門経営科学, 実教出版

【参考図書】J. Best, 『統計はこうしてウソをつく - だまされないための統計学入門』, 白揚社

【参考図書】J. Best, 『統計という名のウソ - 数字の正体, データのたくらみ』, 白揚社

科目名	財務会計論		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

現代の企業の財務情報の多くは、財務諸表という形で世間に公表されている。特に新聞の株式面に名前を載せている企業の財務諸表は、誰でも眼にすることが可能である。本講義においては、財務諸表を正しく読み取り企業情報を理解することができるようになることを目標に、財務諸表の読み方及びその背景となる会計理論の基礎について学習する。また理論だけでなく実際の事例も説明していく予定ある。

内容

1．会計学総論、2．損益会計、3．資産会計、4．負債会計、5．資本会計、6．金融商品会計、7．外貨換算会計、8．連結財務諸表、9．キャッシュフロー計算書、10．その他のトピック的論点
上記項目を授業で解説していきます。基本的な簿記の構造を理解していることを前提に講義を行う。

評価

本講座における評価方法は、期末テスト(50点)、授業態度(20点)、小テスト及び小レポート提出(20点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【使用教科書】:

八田進二・橋本尚著・『財務会計の基本を学ぶ』・同文館出版

科目名	原価計算論		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目の目的は、原価計算の基礎的な知識を習得することである。基礎的な原価計算原理及び記帳、決算等に関する原価計算の実務を理解することである。商業経営とは根本的に異なる工業経営の特質を習得することに主眼がある。そして最終的な目標として日商簿記検定2 級を狙う。

内容

商業経営における経営活動は商品の購買活動と販売活動であり、仕入れた商品を販売することによって利益を上げる。これに対して、工業経営では製品製造に必要な機械、原材料、労働力、電力などを購入する。そしてこれらの資源を消費して製造活動を行い、製造した製品を販売して利益を上げる。工業経営の特質は製造活動を行うことにある。製品の製造プロセスにおいては、原材料、労働力などの原価財がインプットとなりそのアウトプットとして、製品が得られる。この製造プロセスに投入され消費された原価財の貨幣による測定値を原価というのであるが、複式簿記を通して、この原価を体系的に記録・計算する方法を学習する。さらに、ここで得られた原価情報を用いて、効率的な企業経営に役立ついろいろな分析手法についても意欲的に学ぶようにしたい。

- 1 . 原価計算の意義と目的
- 2 . 原価の概念と種類
- 3 . 原価計算勘定体系と帳簿組織
- 4 . 材料費計算、材料費の定義と分類
- 5 . 労務費計算、労務費の定義と分類
- 6 . 製造間接費計算、製造間接費の定義と分類
- 7 . 部門費計算、原価部門の設定、部門個別費 と部門共通費
- 8 . 個別原価計算、製造間接費の実際配賦と予定配賦
- 9 . 総合原価計算、工程別総合原価計算
- 10 . 標準原価計算、標準原価計算の意義、原価差異の会計処理
- 11 . 原価・営業量・利益関係の分析
- 12 . 直接原価計算、直接原価計算の意義と目的
- 13 . 工場会計の独立
- 14 . 工場勘定、本社勘定

評価

出席(30%)及び期末試験(70%)を総合し評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】：『新検定簿記講義2級(工業簿記)』 岡本 清/廣本敏郎 中央経済社

科目名	簿記演習 3		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目の目的は、「簿記演習2 基礎」、「簿記演習2 応用」および「原価計算論」において学習した簿記原理・原価計算原理を更にブラッシュアップすることである。工業経営における財務諸表を作成する能力を養うことである。より多くの問題を解くことによって、そして反復練習をすることによって、確実に力をつけるようにしていきたい。そして最終的な目標として日商簿記検定2級を狙う。

内容

工業経営における財務諸表の作成に主眼を置いていきたい。工業経営においては、商業経営には見られない特殊な勘定科目がいくつもあるので、それに対する理解を深める。商業経営における経営活動は商品の購買活動と販売活動でありそれほど複雑ではないが、工業経営の特質は製造活動を行うことにある。この製造活動を記録する仕訳が出来るようにしたい。簿記の最終成果物といえば、それは企業の財政状態を表す貸借対照表と企業の経営成績を表す損益計算書である。したがってこの貸借対照表と損益計算書を作成するプロセスに重要性をおいた授業の進め方をしていく。とにかくいろいろな問題をより多く解くようにしていく。一つ一つの問題を解くに当たっては、貸借対照表との関連及び損益計算書との関連を常に考えるようにしていきたい。

1. 現金預金取引
2. 有価証券取引
3. 手形取引
4. 商品売買取引
5. 固定資産取引
6. 個別原価計算
7. 総合原価計算
8. 標準原価計算
9. 直接原価計算
10. 損益計算書の作成
11. 貸借対照表の作成
12. 株式会社会計
13. 本支店会計
14. 伝票式会計

評価

出席(30%)及び期末試験(70%)を総合し評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】：特に指定しない。

科目名	演習		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法を、生活者・消費者的視点から、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として私法の分野からのアプローチをしてゆきます。広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。文献購読、参加者による報告、ディスカッションを通じて、歴史的な背景や現在の社会をめぐり状況からその機能・限界を踏まえて展望について研究します。4年の卒業研究へむけてのテーマを見つけてゆきます。

内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」等を素材に研究を進めます。指定の文献を事前に必ず読んでいることが全員に要求されます。担当レポーターは制度・事案を整理してレジюмеを作成し報告します。それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。後期は、通常の報告と同時並行して卒業研究のテーマ選び、卒業研究のテーマに関する研究・調査の準備を行ないます。卒業研究の準備として、選択したテーマにつき、後期終了時まで、各自ゼミ・レポートを作成します。

評価

授業中の発表(30%)・報告・議論への参加態度(30%)、前期・後期のレポート(40%)により評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。

科目名	演習		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1、2年次での学習を踏まえ、3年次よりゼミでの学習を進めていく。卒業論文作成のための基礎を学習する。

内容

日本経済や経営に関する文献を読み、基礎的な知識の確認と論点について把握する。その際、1章ごとに数人で分担し報告する。その過程でレジユメの作り方、報告の方法などを習得させる。テキストは学生と相談して決める。

その後、各自自らのテーマを設定し、レポートを作成していく。その際、テーマの設定の方法、資料の集め方、アウトラインの作り方などを指導していく。

評価

1.出席50% 2.ゼミでの活動50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

4年生の卒業研究の準備として、日本の会計理論を幅広く学習する。

内容

資産、負債、資本、収益、費用について、取得原価主義の観点から、学習する。

評価

課題の提出、取り組み姿勢などを総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。

科目名	演習		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営に関する領域において、それぞれゼミ履修生の自主性を重視し、その興味に答えて内容を組み立てる。

マーケティング・会計・戦略を三本柱として、経営に関する諸課題を抽出し、それらに関し検討を加える。上記内容に関し、3年次は主として基本的概念に関する学習を行い、4年次の卒業研究に関する各自のテーマ選択の準備を行う。また、演習では経営の実践を学ぶために、企業見学や企業の実務担当者を招いてお話を伺う機会を持つ。

内容

前期では、基本テキストを使用し、各自分担したテーマに応じて内容を調べ、発表し、議論する。後期には、基本テキストの学習と並列して、各自の関心に基づいて関連する文献の調査等を行い、みんなで報告しあい卒業研究のテーマを絞っていく。

評価

評価方法は、ゼミ参画状況(70点)、課題提出(30点)をもとに総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	演習		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報化が進み、変化の激しい現代の社会において必要とされる能力とはどのようなものであろうか。従来の大量生産システムに代表される社会においては、指示されたことをそのとおりにできることや、的確な事務処理能力などを備えていることが好ましいとされていた。しかし、今では社会の変化が著しく、しかも人々の価値観や好みは多様を極めている。

このような現代社会においては、自分の考えや価値観を認識することが必要である。さらにどのような変化にも適応できるためには、独力で新しい物事を学んでいけるだけの強い意志力と柔軟な思考力が求められている。

本科目では未知の事態に直面した場合に発揮されるべき認識力、分析力、表現力等を、調査の企画とデータ分析を通して身につけることを目標としている。

演習 ではデータ分析手法を中心に学習し、演習 では、ビジネス、マーケティングに関する学習を通して卒業研究のテーマを確定する。

内容

- 1 ビジネスデータの捉え方
- 2 SPSSによるデータ解析(1)データの扱い
- 3 SPSSによるデータ解析(2)時系列データ
- 4 SPSSによるデータ解析(3)相関・回帰
- 5 SPSSによるデータ解析(4)平均の差の検定
- 6 SPSSによるデータ解析(5)分散分析
- 7 SPSSによるデータ解析(6)因子分析
- 8 インターネット上のデータの扱い
- 9 調査手法(1)
- 10 調査手法(2)
- 11 レポート作成手法
- 12 プレゼン手法
- 13 課題作成(1)
- 14 課題作成(2)
- 15 課題発表

評価

評価は、以下の3点を総合して行う

- 1 . 出席状況(30%)
- 2 . 授業に対する意欲と態度(20%)
- 3 . 課題発表の達成度(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『SPSS による統計処理の手順』石村貞夫著(東京書籍)

【推薦書】『すぐわかるSPSS によるアンケートの調査・集計・解析』内田治著(東京図書)417/U

科目名	演習		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

金融やその他企業の活動にかかわるビジネス法を、生活者・消費者的視点から、ビジネスパーソンの視点から考察します。契約を中心として私法の分野からのアプローチをしてゆきます。広く社会に関心を持ち、現状を踏まえ、それらをめぐる法律はどのようになっているのか、法の目的や紛争解決手段を学びます。文献購読、参加者による報告、ディスカッションを通じて、歴史的な背景や現在の社会をめぐる状況からその機能・限界を踏まえて展望について研究します。4年の卒業研究へむけてのテーマを見つけてゆきます。

内容

日常生活でも仕事をしていく上でも重要な「契約」や「紛争解決制度」等を素材に研究を進めます。指定の文献を事前に必ず読んでいることが全員に要求されます。担当レポーターは制度・事案を整理してレジюмеを作成し報告します。それを踏まえて参加者による積極的な質疑応答・ディスカッションを通じて、理解を深めます。後期は、通常の報告と同時並行して卒業研究のテーマ選び、卒業研究のテーマに関する研究・調査の準備を行ないます。卒業研究の準備として、選択したテーマにつき、後期終了時まで、各自ゼミ・レポートを作成します。

評価

授業中の発表(30%)・報告・議論への参加態度(30%)、前期・後期のレポート(40%)により評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参加学生の関心に照らし、授業時に指示します。

科目名	演習		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1、2年次での学習を踏まえ、3年次よりゼミでの学習を進めていく。卒業論文作成のための基礎を学習する。

内容

前期からの学習を続けながら、卒業研究に着手する。

評価

1.出席50% 2.ゼミでの活動50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	演習		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

4年次の卒業研究の準備として、米国の会計理論を学習する。

内容

資産、負債、資本、収益、費用について、時価主義の観点から学習する。

評価

課題の提出、取り組み姿勢などを総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。

科目名	演習		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

経営に関する領域において、それぞれゼミ履修生の自主性を重視し、その興味に答えて内容を組み立てる。

マーケティング・会計・戦略を三本柱として、経営に関する諸課題を抽出し、それらに関し検討を加える。上記内容に関し、3年次は主として基本的概念に関する学習を行い、4年次の卒業研究に関する各自のテーマ選択の準備を行う。また、演習では経営の実践を学ぶために、企業見学や企業の実務担当者を招いてお話を伺う機会を持つ。

内容

後期には、前期に引き続き、基本テキストを使用し、各自分担したテーマに応じて内容を調べ、発表し、議論する。後期には、基本テキストの学習と並列して、各自の関心に基づいて関連する文献の調査等を行い、みんなで報告しあい卒業研究のテーマを絞っていくと同時に、マーケティングや経営に関する研究テーマを選択し、グループによる調査研究を行う。

評価

評価方法は、グループ研究の成果(40点)、ゼミ参画状況(50点)、課題提出(10点)をもとに総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	演習		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

情報化が進み、変化の激しい現代の社会において必要とされる能力とはどのようなものであろうか。従来の大量生産システムに代表される社会においては、指示されたことをそのとおりにできることや、的確な事務処理能力などを備えていることが好ましいとされていた。しかし、今では社会の変化が著しく、しかも人々の価値観や好みは多様を極めている。

このような現代社会においては、自分の考えや価値観を認識することが必要である。さらにどのような変化にも適応できるためには、独力で新しい物事を学んでいけるだけの強い意志力と柔軟な思考力が求められている。

本科目では未知の事態に直面した場合に発揮されるべき認識力、分析力、表現力等を、調査の企画とデータ分析を通して身につけることを目標としている。

演習 ではデータ分析手法を中心に学習し、演習 では、ビジネス、マーケティングに関する学習を通して卒業研究のテーマを確定する。

内容

- 1 マーケティングの基礎(概説)
- 2 発表分担とプレゼン・レジュメ作成技法
- 3 分担発表(1)市場選択 事業機会と事業領域
- 4 分担発表(2)市場選択 標的市場
- 5 分担発表(3)市場分析 市場データ・消費者行動分析
- 6 分担発表(4)市場分析 競争・流通分析
- 7 分担発表(5)市場対応 製品・価格対応
- 8 分担発表(6)市場対応 コミュニケーション対応
- 9 分担発表(7)市場対応 流通チャンネル対応
- 10 分担発表(8)市場コミュニケーション サービスマーケティング
- 11 分担発表(8)市場コミュニケーション ソーシャルマーケティング
- 12 卒論テーマ作成のためのワーク
- 13 卒論テーマ作成のためのワーク
- 14 卒論テーマと研究方法
- 15 まとめ

評価

評価は、以下の3点を総合して行う

- 1 . 出席状況(30%)
- 2 . 授業に対する意欲と態度(20%)
- 3 . 課題発表の達成度(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『マーケティング戦略』和田充夫・恩蔵直人・三浦俊彦著(有斐閣)

【推薦書】『すぐわかるSPSS によるアンケートの調査・集計・解析』内田治著(東京図書)417/U

科目名	経営のためのデータ解析基礎		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

変化の激しい現代社会においてはデータの迅速かつ的確な分析によって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、ビジネス分野で必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である正規分布の特徴、相関回帰、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

内容

- 1 データの概念・記述統計と推測統計
- 2 分散と標準偏差
- 3 度数分布と正規分布
- 4 正規分布の基本
- 5 正規分布の応用
- 6 相関関係と散布図
- 7 相関と回帰
- 8 単回帰分析
- 9 相関・回帰の応用
- 10 推定と検定の基礎：帰無仮説とは
- 11 区間推定(1)
- 12 区間推定(2)
- 13 仮説検定(1)
- 14 最終試験
- 15 返却・解説・まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 出席状況 (30%)
- 2 . 最終課題の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『図解でわかる統計解析』前野正弘、三國 彰 著(日本実業出版社)

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

【参考図書】『Excel によるやさしいデータ解析例』玉置友一 著(青山社)

科目名	経営のためのデータ解析基礎		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

変化の激しい現代社会においてはデータの迅速かつ的確な分析によって意思決定を行う必要性が高まっている。本科目においては、ビジネス分野で必要とされるデータ解析の基礎知識とExcelによる分析手法を学習する。推測統計の基本である正規分布の特徴、相関回帰、推定と検定の考え方について理解し、これらに関する問題をExcelを利用して解く事ができる技術を身につける。

内容

- 1 データの概念・記述統計と推測統計
- 2 分散と標準偏差
- 3 度数分布と正規分布
- 4 正規分布の基本
- 5 正規分布の応用
- 6 相関関係と散布図
- 7 相関と回帰
- 8 単回帰分析
- 9 相関・回帰の応用
- 10 推定と検定の基礎：帰無仮説とは
- 11 区間推定(1)
- 12 区間推定(2)
- 13 仮説検定(1)
- 14 最終試験
- 15 返却・解説・まとめ

評価

評価は、以下の2点を総合して行う

- 1 . 出席状況 (30%)
- 2 . 最終課題の達成度 (70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『図解でわかる統計解析』前野正弘、三國 彰 著(日本実業出版社)

【推薦書】『統計学入門』東京大学教養学部統計学教室編(東京大学出版会) 417/T/1

【参考図書】『Excel によるやさしいデータ解析例』玉置友一 著(青山社)

科目名	国際ビジネス実務		
担当教員名	福田 弘		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

グローバル化時代とは、あらゆる企業がその意志とは無関係に国際的なビジネスの枠組みに関わらざるを得ない状況になっている時代といえる。言い換えれば好むと好まざるとにかかわらず国際化を意識したビジネス展開を行わざるを得ない時代であるといえることができる。

国際ビジネス実務という言葉の中には非常に多くの要素が含まれる。大別すれば貿易などに代表される国際商取引にまつわる実務と、国際的な事業展開を行うに当たっての国際経営の実務といったものがある。

本講義では、すでに本学部で開講されている国際ビジネス関連の講義とはなるべく重複しない形で国際ビジネスにかかわる事象を扱い国際ビジネスが学生諸氏の考えている以上に身近なものとなっている実態を理解することを狙いとする。

内容

講義は

1. 国際商取引の形態
2. 国際商取引を行う際の重要なルール
3. 企業の国際経営(海外進出)の概要
4. 国際経営を行う上での留意点

を大きな柱として進めていくが出来事によっては複数のテーマにかかわるのは当然なので厳密には区別を行わない。

また講義は実際にメディア(主として新聞)に現れた出来事も取り上げて、その出来事と講義のテーマとのかかわりを説明することにより、講義と実社会の動きの関連について理解をしてもらう。

評価

出席、中間テスト(またはレポート)試験(またはレポート)を総合して行う。出席に40%、その他に60%を配分する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ブランド戦略論		
担当教員名	崎山 嗣夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ブランド論を修得するには「マーケティング」の理解は不可欠な要件である。そこで、本講座ではマーケティングを単に学問的に理解するのではなく、民間企業を始めとして全ての組織で重要なマーケティング的発想を実学として学習することを大きな目的とする。

社会は好むと好まざるとに関わらず、常に変化している。変化に対応できない組織は間違いなく社会から溶暗される。10数年前のバブル期、超優良企業として存在した日本興業銀行・日本長期信用銀行が日本社会から消失することを当時誰も予想しなかった。しかし、21世紀の今日、日本の何処にも存在しない。また流通業の「ダイエー」も今日の状況を予言した人は誰もいない。何故このような事態に陥ったのか？答えは幾つもあるが、最大の要因はバブル後の日本経済の大変革に企業として対応できなかったことによる。更に今日の百年に一度と言われる世界的な「金融危機」も一年前には誰も予測しなかったことである。この事態に組織はどう対応すれば良いのだろうか？

そこで、本講座では変化に対応する実学としてマーケティングが重要な学問であることを「ブランド論」を中心に、生活に密着した様々な事例を上げ初心者が理解できるよう分かり易く解説する。なお、当該講座を履修し「マーケティング」発想を身に着けることで、より充実した人生観をもち、精神的にも豊かな生活が実践可能な授業内容になるよう配慮する。

内容

「ブランド」とは何かを考えると同時に、ブランド成立のメカニズムやその育成について身近な事例を上げて考える。また、ブランドには「情緒的価値ブランド」(ルイビトン・カルチェ・グッチ等)と「機能的価値ブランド」(アタック・ハーゲンダッツ・ユンクロ等)とが存在するが、夫々のブランドの持つ意味について具体例を挙げて学習する。

更に「ブランド」をより深く理解するため「マーケティング」を修得する場とする。具体的には変化に対応するマーケティング発想とマーケティングスキルを身につけることが重要。

本講座では「今日日本で何が起きているか」を10項目+1で、日本で生じている「不健全な現象」の意味を説明する。一言で表現すれば、今日日本社会で生じている世界でも類を見ないデフレスパイラルの発生メカニズムについて解説する。は に対応するための「日本発世界初創造的マーケティング」を、従来のマーケティング論に囚われないマーケティングの原点である生活者・消費者・ユーザー視点に立った創造的なマーケティング論を展開する。 は日本企業研究をマーケティング視点から検証する。成長のない市場における企業のあり方、及び構造的パラダイム変化に対応したブランド論・商品開発について解説する。 は今後のマーケティング研究の要諦と課題を日々発生している様々な社会現象を事例として取り上げ、マーケティングの心髄を把握することで今後の学習の方向性を示唆する。

本講座を履修することで「マーケティング」の面白さを理解してもらい、更なる学習意欲が喚起可能な授業内容になるよう最大の工夫を試みる。

評価

本講座における評価方法は、原則、出席5割、期末テスト(ペーパーテスト)5割により総合評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『目盛りを変えろ 日本が見える』 崎山 嗣夫著 (日本経済新聞社)

『企業改革への道 - 顧客視点の発想 - 』 崎山 嗣夫著 (日本経済新聞社)

科目名	国際経営論		
担当教員名	笠原 伸一郎		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

グローバル化時代を迎え、日本企業も従来の年功序列、終身雇用といった日本的慣行が崩壊しつつある現在、個々の従業員の能力が問われる時代となった。

本講では、こうした経営のグローバル化の問題が生じた理由を歴史的に概説するとともに、今後企業社会で生じる様々なビジネス活動の問題点を国際経営戦略論の立場から多角的に検討する。さらに、21世紀にむけた地球企業社会の方向性を最後に明示し、将来の就職先を決定するさいのヒントを提示する。

内容

1. 国際経営の基礎

国際化と企業経営の問題点を基礎からわかりやすく概説し、身近な例から21世紀を生きるうえで、誰もが知っておくべき経営知識を解説し、就職で有利になるように導く。

2. 国際経営の史的展開(ビデオ教材使用)

20世紀初頭の米国ビッグ・ビジネスの成立を中心に、19世紀後半以降の多国籍企業の展開、そして近年のグローバル企業について歴史的に解説する。

3. 国際経営の実践(ビデオ教材使用)

デュポン、HONDA、トヨタ、日産、SONY、富士通などの大企業および中堅、中小企業など、多数の事例を挙げてそのグローバル戦略を検討する。

4. 国際経営と文化

異文化経営の問題点を解明し、南北問題、そして日本の経営の問題点まで言及する。

5. グローバル時代における日本企業の課題

21世紀に向けての高度先端産業および航空・宇宙・リゾート産業の再編、企業と地球環境問題など、さまざまな問題点を多角的に検討し、グローバル企業の方向性を探っていく。

最後に、日本企業の今後の課題を提示するとともに、将来の就職へのアドバイスを含めて全体を総括する。

評価

出席を重視し(80%)、簡単なレポート(20%)等で総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 笠原伸一郎著『グローバル企業の史的展開』

【推薦書】 笠原伸一郎編『図説 国際ビジネス』【所蔵無】

江夏健一編『新版 理論とケースで学ぶ国際ビジネス』(同文館出版) 335.5/R

日経新聞、その他、授業中に指示する。

科目名	企業の危機管理		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

日本企業におけるコーポレートガバナンスをアメリカとの比較で行う。また、企業が立ち向かう様々な危機を具体的に取り上げ、どのようにその危機を乗り越えていくかを検証していく。また、近年話題のM&Aや会社法改正についても取り上げる。

内容

取り上げる内容は次のものである。

1. 会社とは何か
2. 株式会社の歴史と基本構造
3. 会社の仕組み
4. コーポレート・ガバナンス
5. 敵対的買収
6. 日本型経営
7. 企業不祥事
8. 企業倫理
9. 日本型雇用慣行
10. 正規雇用と非正規雇用

評価

1. 出席 20%
2. 学期末のレポート 80%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【推薦書】ロナルド・ドーア『誰のための会社にするか』岩波書店、2006年。 336/D
 松田修一『ビジネス・ゼミナール 会社の読み方』日本経済新聞社、2006年。 336/M
 石井淳蔵『マーケティングを学ぶ』筑摩書房、2010年。

科目名	企業倫理		
担当教員名	松本 邦明、永野 康雄		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講座では、学生が、これからビジネスの各分野へ進むことを考慮して、企業を見る眼を養うとともに企業人あるいは社会人として如何にあるべきか、どのように行動すべきかを理解し、自らのビジネスキャリアの構築についての指針を持てるように配慮しています。

本科目を履修することによって、学生は、グローバル化した現代社会の中で企業が社会からその存在を許容される根拠は何か、望ましい企業活動とは何か、個人と組織はどう関わり合っていくべきなのかという基本的な課題についての考え方や、わが国及び世界各国で検討が進められている最新事情(コーポレートガバナンス、環境マネジメント、コンプライアンス、企業の社会的責任など)を理解します。

内容

本講座では、企業を取り巻くステークホルダー(利害関係者)との関係において、どのような課題を抱えているかを解説します。次に、企業及び各ステークホルダーが課題解決のためにどのような方策を実施、検討しているかについて、経済、環境、倫理の三つの切り口(トリプル・ボトムライン)から考察を加えます。また、激しく変化している社会のなかで、21世紀を形作るどのような潮流があるのか、そしてなぜ企業倫理が必要とされるのかを明らかにします。さらに、企業倫理をめぐって、日本、米国、欧州でどのような活動が行われているのか、その興味ある最新の動きをご紹介します。それを通じて、現代の企業が抱える主要な倫理課題について考えます。また、日本の国内でも最近企業経営の考え方が大きく変わってきています。いくつかの企業の事例を取り上げその倫理課題解決へむけての具体的取組をご紹介します。

授業の進め方は講義を中心にしますが、ケースメソッドによるディスカッションを通じて、学生が自分で考え判断する力を養います。

評価

出席点25点、平常点25点(授業参加点、小レポートなど)、期末テスト50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】『企業の社会的責任』 高 巖・辻 義信ほか共著 日本規格協会 335.15/K

『経営倫理学のすすめ』水谷雅一著 丸善株式会社 335.15/M

『経営倫理』日本経営倫理学会[監修]水谷雅一[編著]同文館出版 335.15/M

【参考図書】『コンプライアンス 規定・実践実例集』

『コンプライアンス経営』田中 宏司著 生産性出版

科目名	コーポレートコミュニケーション		
担当教員名	崎山 嗣夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

今日の企業にとって社会、特に顧客(消費者・ユーザー)との間に円滑な関係を築くことは、健全な企業運営を継続する上で、重要な戦略の一つである。特に今日の「食品の産地偽装問題」「汚染米問題」等本来あってはならない企業のアンフェアな行為は目に余る状況の中で、企業が顧客との間で正しいコミュニケーションを取るかは企業にとって正に大きな課題である。

また、IT技術の凄まじい進歩は、社会・顧客とのコミュニケーションを図る上で、様々な状況の変化を生んでいる。又、その変化も従来の知識だけでは克服できない大きなテーマでもある。そこで、本講座では「マーケティング」視点に立って、コーポレート・コミュニケーションの現状と今日的課題について解説をする。その為の基本として「マーケティング」とは如何なる学問であるかを理解することで、より充実した人生観を醸成し、精神的にも豊かな生活が暮らせるような授業内容になる様配慮する。

内容

企業は日々、自らが生み出した商品やサービスを提供することで社会に貢献することが基本の活動である。しかし、社会・顧客はその活動を常に正しく認識し評価してくれる訳ではない。又、企業活動は確かに営利を第一義にはしているが、社会的責任を同時に担っている。そこで、本講座は「コーポレート・コミュニケーション」の意義について理解すると同時に、そのベースにある「マーケティング」について理解を深める様授業の内容を組み立てることとする。

1. コーポレート・コミュニケーションの定義
2. コーポレートコミュニケーションの革新
3. PR(パブリック・リレーション)活動と広報部門の課題
4. コーポレートコミュニケーションの具体例
5. 日本のコミュニケーション活動の現状
6. 今後の日本のコーポレートコミュニケーションのあり方
7. コーポレートコミュニケーションと各種メディアの活用
8. コーポレートコミュニケーションに置ける広告活動
9. 今日的コーポレートコミュニケーションの課題
10. 今後のコーポレートコミュニケーションの理想とは

コーポレート・コミュニケーションの実戦を学習するため、可能な限り現在、企業の第一線で活躍している方々を数回ゲストとして呼びし、現場のコーポレート・コミュニケーションについて話を聞く講義も設ける予定でいる。

評価

本講座における評価方法は、原則、出席5割、期末テスト(ペーパーテスト)5割により総合評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 『目盛りを変える、日本が見える』 崎山嗣夫著（日本経済新聞社刊）

『企業改革への道、一顧客視点の発想』 崎山嗣夫著（日本経済新聞社刊）

科目名	貿易実務		
担当教員名	貝島 良太		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目のねらいは、貿易に関するさまざまな業務内容と考え方を、大手電気メーカーの輸出部門で実際に貿易業務に携わっていた者の体験談を直接聞くことにより、一般教科書では習得できないような内容を、受講者が生きた知識として吸収し、貿易に対する理解を深めることにある。

内容

一口に貿易といっても、輸出と輸入がある。それぞれにおいてマーケティングから始まり、見積、契約、出荷、輸送、入金、クレーム、保険まで多岐にわたる。企業で貿易関連業務に携わる場合、事前に理解しておくことが必要となる貿易業務の基礎知識を学習する。

授業は主としてパワーポイントを使用して行う。「重量物の輸送」と「輸出管理」ではビデオ上映、およびお台場の東京税関見学会を交え分かりやすくする。

全15回の授業内容は次のとおりであるが、難易度により1回半あるいは2回にわたって講義をする話題もある。また、話題の順序を入れ替えることもある。

1. 概論
2. 国際間の契約条件
3. 見積から契約まで
4. 荷造りと輸送
5. 大型機械などの重量物の輸送
6. 海上輸送保険
7. 代金回収
8. 輸入
9. プラントものの現地側受入れ事情
10. 輸出管理〔危険国への輸出規制〕
11. コレポン〔商業英語〕
12. 小テストと授業評価
13. 東京税関(見学)

評価

小テスト(15分程度、50点満点)および、税関見学会のレポート(A4 1枚、50点満点)を合計したものに、出席率を乗じて評価する。60点以上を合格とする。特に11週以上の出席者には累進的恩典あり。出席率と計算方法については、概論で説明する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

- (1) 『改訂版 よくわかる貿易実務入門』・片山立志著・日本能率協会マネジメントセンター

【参考図書】

- (1) 『貿易の英語（第2版）』・羽田三郎、島弘祐 共著・森北出版
- (2) 『Incoterms 2000（英日対訳版）』・国際商業会議所 日本委員会
- (3) 『日本貿易の現状 2010年版』・社団法人日本貿易会

科目名	意思決定手法		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

最適な意思決定のためには、得られたデータや情報を最大限に活用し、これらを分析することにより起こりうる結果を推測することが必要である。経営学を学ぶ上で、オペレーションズリサーチの基礎的知識は必須である。本科目では、オペレーションズリサーチの代表的な問題である、「線形計画法」「在庫管理問題」「待ち行列問題」などについてについて、Excelによる演習を通して具体的に学習していく。

内容

- 1 意思決定手法とは
- 2 自動販売機のつり銭問題
- 3 乱数と確率モデル
- 4 最適化問題(1)
- 5 最適化問題(2)
- 6 ディシジョンツリーと決定問題
- 7 決定問題(1) バイク問題
- 8 決定問題(2) 社員採用問題
- 9 在庫問題(1) 新聞売り子問題
- 10 在庫問題(2) 定期発注方式
- 11 在庫問題(3) 発注点発注方式
- 12 待ち行列問題(1) 定期到着
- 13 待ち行列問題(2) マクロの活用
- 14 待ち行列問題(3) ランダム到着
- 15 まとめ

評価

評価は、以下の3点を総合して行う

- 1 . 出席状況(30%)
- 2 . 課題の提出状況と達成度(20%)
- 3 . 最終課題の達成度(50%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『Excelで学ぶ経営科学入門シリーズ シミュレーション』荒木 勉・栗原和夫著(実教出版)

【推薦書】『マーケティングデータ解析』木島 正明 他 編著(朝倉書店) ISBN4-254-29502-2

科目名	マーケティングリサーチ		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、世界的に多様な分野において利用されている統計パッケージSPSSを用いて、実践的なマーケティングリサーチの手法について学ぶことを目的としている。マーケティングリサーチの手順と方法について知ると共に、調査票の作成、調査の実施、データ分析、発表の一連の作業について実習を行い、実践力を身につける。

内容

- 1 マーケティングリサーチとはなにか
- 2 リサーチプロセスと課題の発見
- 3 リサーチデザインとデータ収集
- 4 質問紙の作成(1)技法
- 5 質問紙の作成(2)演習1
- 6 質問紙の作成(3)演習2
- 7 調査の実施とデータ入力
- 8 SPSSによる調査データ処理
- 9 SPSS による調査データ分析(1)基本統計
- 10 SPSS による調査データ分析(2)検定・分散分析
- 11 SPSS による調査データ分析(3)回帰分析・因子分析
- 12 グラフ作成技法
- 13 プレゼンテーション作成技法(1)
- 14 プレゼンテーション作成技法(2)
- 15 課題発表

評価

評価は、以下の3点を総合して行う

- 1 . 出席状況(30%)
- 2 . 最終課題の達成度(70%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【参考図書】『『MBAマーケティングリサーチ入門』高田博和 他 著(東洋経済新報社)
『SPSS でやさしく学ぶ統計解析』室・石村著(東京書籍) 417/M

科目名	消費者と法		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1,3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

私たちは、通信販売で洋服を買う、映画を見る、旅行会社でツアーに申し込む、電車にのるといったあらゆる日常生活の場面で私たちは誰もが「消費者」として生活しています。つまり「事業者」から物やサービスを購入し、利用しているのです。しかし、販売方法も多様化し、社会も複雑化している状況のもと、大量生産・大量販売といった機能が事業者により担われている現代社会の中で、生産者である事業者と、消費者である私たちとは、持てる情報にも差があり、地位としても対等とはいえません。ここに様々なトラブルが生じる可能性があります、どのような法的対応ができるのでしょうか。消費者と法とのかかわりについて学ぶことを目的とします。

内容

【総論】消費者法とは : 民法と消費者法(消費者契約法・特定商取引法等)との関係

【各論】具体的な消費者問題の事例とを検証する

1. 未成年者・高齢者と消費者問題
2. 金融機関と消費者問題
3. 信用取引と消費者問題
4. 破産と倒産
5. 訪問販売
6. マルチ商法・ネズミ講
7. 不動産と消費者問題
8. 情報化社会(インターネット)と消費者問題
9. 企業と消費者との関係 CSR・コンプライアンス

【紛争解決と消費者】

1. 裁判所と消費者
2. 行政と消費者
3. 裁判所以外の窓口(ADR)と消費者
4. 教育と消費者

評価

出席・受講態度(20%)、レポート等提出物(30%)、ペーパーテスト(50%)を総合して評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

開講時に指示する

科目名	ビジネス実務法務初級		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ビジネス社会と法」について知識・教養を身につけ、考察を深める。

1. ビジネス社会において法はどのような役割があるのか、
2. 現在ビジネス社会で活用されている法にはどのようなものがあるのか、
具体的な事例や演習問題(「ビジネス実務法務検定試験3級」レベル)を通じて学習する。

社会人としての法的教養の基礎を身につけることがねらいである。

「ビジネス実務法務 」(前期)と「ビジネス実務法務 」(後期)両方を履修することが望ましい。

内容

ビジネス社会における紛争解決の方法、ビジネス社会に不可欠な契約、土地建物の権利関係、法人の取引、金融と法律について、基礎的な概念を抑えたうえで、演習問題や事例・判例を通じて学ぶ。そして、ビジネス社会についての法の機能や、ビジネスで使われる法の知識を身につけ理解を深める。主に日本国内の事例を取り扱う予定である。

評価

出席・平常点20%、レポート・授業時の演習問題・試験80%で評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

開講時に指示する。

科目名	ビジネス実務法務中級		
担当教員名	阿部 史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ビジネス社会と法」について知識・教養を身につけ、考察を深める。

1. ビジネス社会において法はどのような役割があるのか、
2. 現在ビジネス社会で活用されている法にはどのようなものがあるのか、
具体的な事例や演習問題(「ビジネス実務法務検定試験3級」レベル)を通じて学習する。

社会人としての法的教養の基礎を身につけることがねらいである。

「ビジネス実務法務 」(前期)と「ビジネス実務法務 」(後期)両方を履修することが望ましい。

内容

ビジネス社会における紛争解決の方法、ビジネス社会に不可欠な契約、土地建物の権利関係、法人の取引、金融と法律について、基礎的な概念を抑えたうえで、演習問題や事例・判例を通じて学ぶ。そして、ビジネス社会についての法の機能や、ビジネスで使われる法の知識を身につけ理解を深める。日本国内にとどまらず、国際ビジネスと法についても取り扱う予定である。

評価

出席・平常点20%、レポート・授業時の演習問題・試験80%で評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

開講時に指示する。

科目名	新規事業開発		
担当教員名	中嶋 修		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.ベンチャービジネス(起業)支援の現場から見た成功例、失敗例の具体的事案を基に起業(新規事業開発)分野において必要な事柄を総合的に勉強します。
- 2.最近、自分のアイデアを活かした学生起業家、女性起業家、社会起業家が増えています。アイデアの活かし方、付加価値のつけ方、事業成功の秘訣を勉強します。
- 3.誰もが将来は経営者(起業家)になる可能性を秘めています。経営者としての考え方、経営者に不可欠な基礎知識を広く勉強します。
- 4.毎回、最新の情報(日経)を元に重要な課題(経済・政治・流行等)についての講義(15分程度)と金融機関、デザイナー、海外営業マン等の実務者をゲストに招き現状のビジネスについて講義をしてもらいます。(2-3回程度)
- 5.新規事業開発に必要なものは 情報 アイデア 志(考え方) 知識です。就職の際にも必要な事柄を丁寧に指導していきます。

内容

- 1.新規事業開発(起業)の重要性と実態
- 2.日本の現状と将来(政治、経済、外交、歴史)
- 3.起業家の成功事例研究
- 4.起業家の失敗事例研究
- 5.起業家(経営者)に必要な考え方(信条)相田みつを教材として
- 6.、資金調達方法(お金の借り方と注意点)
- 7.営業、企画、マーケティング
- 8.会社設立方法
- 9.新規事業計画(創業計画)作成における基本的な考え方と事例研究
- 10.実地研究(新商品開発の為の工夫の仕方)
- 11.会社経営で日常発生する問題点と解決方法
- 12.失敗した時(撤退)の注意事項と解決方法
- 13.金融機関の実務責任者の話
- 14.メーカー海外責任者の話
- 15.商社等実務者の話

上記の項目について事例を多く取り入れた実践的で解りやすい授業をします。社会人として又、新規事業開発(起業)に最低限必要な知識、情報、科目については重複して指導をします。(授業の順は変更あり)

評価

- 1.出席状況
 - 2.課題提出(レポート)
- 1.出席状況(50点)及び2.課題提出レポート(50点)により評価を行い160点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

なし

科目名	管理会計論		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

企業経営における諸活動は最終的には財務(会計)数値に帰結する。そのため、企業経営を行うためには財務数値の理解と活用が不可欠になる。企業の外部利害関係者のために企業の経営成績や財務状態を明らかにするのが財務会計であり、経営管理に財務数値を役立たせるのが管理会計である。管理会計は経営のための会計であり、管理会計と呼ぶよりは経営会計とすべきである。

管理会計論は、簿記会計論と経営学や経営戦略論の融合する領域であり、財務数値を用いて経営管理や経営戦略がいかに運営・構築されていくかについて理解する。

本講座では、簿記会計をベースとして、算出された財務数値を応用し、いかに経営管理に役立たせていくかについて学ぶ。

内容

本講義の内容は次の通りである。

1. 管理会計のフレームワーク
2. 経営分析
3. 損益分岐点分析
4. 意思決定のための管理会計
5. ABC とABM
6. 戦略策定のための管理会計
7. バランスト・スコアカード
8. 利益計画
9. 予算管理

評価

本講座における評価方法は、期末試験(50点)、授業態度(10点)小テスト及び小レポート提出(40点)によるものとし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『管理会計・入門』 浅田孝幸・頼誠・鈴木研一・中川優・佐々木郁子 著 有斐閣アルマ

科目名	監査論		
担当教員名	浅野 昌孝		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 監査論の基礎知識を習得する。
2. 近年、公認会計士による財務諸表監査に関する問題が、新聞等で頻繁に報道されている。こうした時事的な問題を取り上げて、監査についての理解を深める。

内容

監査論は、会計学に比べて内容が抽象的になるので、可能な限り新聞等で報道された事例・事件をとりあげて講義を進めていく。講義内容としては、日本における公認会計士による財務諸表監査を中心に扱う。講義で取り扱う予定のテーマは、以下の通りである。

- 1)新聞記事等に見る監査をめぐる問題
- 2)監査の意味と必要性
- 3)監査の種類
- 4)監査人
- 5)日本の監査制度
- 6)監査基準
- 7)監査の実施プロセス
- 8)内部統制組織
- 9)監査意見と監査報告書
- 10)連結財務諸表監査
- 11)中間監査・四半期レビュー
- 12)監査が抱える課題

評価

出席点・平常点として60点、ペーパーテスト40点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

レジュメを用いる予定。

科目名	ビジネス税務		
担当教員名	円城寺 大樹		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この講義では、実務において重要となる法人税、消費税、所得税の主要な論点について解説をするとともに、理論的側面のみならず普段中小企業において行われている経理業務からはじまり決算業務、申告書の作成にいたるまでの一連の手続きについて実務的な側面の理解を深めることを目的としている。

内容

授業は、講義を中心とするが、中小企業の経理実務においてまた個人の日常生活において使われる頻度の高い税法の理解を深めるために講義の進行具合に応じて計算の演習を行い、講義と演習を繰り返し進めていく。

評価

期末テスト60点、レポート20点、出席点20点により評価を行い60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	BATIC		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目の目的は、世界のトップ水準にあるといわれている米国の簿記と会計理論を学習して、その知識を習得することである。まず米国式帳簿組織を理解することから始める。そしてそこから米国の会計理論の学習に入っていく。目標としてBATIC 検定ブックキーパーレベル (Bookkeeper Level) を狙う。

内容

企業が業種や規模の大小にかかわらず、何らかの形で海外の資本や企業とのかかわりをもたらすをえない時代になってきている。国境を越えて情報を届けるインターネットの普及がさらにこれを後押ししている。このような経済社会のグローバル化においては、決算書を英語で作成したり、英文決算書を読むことができる人材が強く求められている。国際的なビジネスにあっては、いまや簿記会計はもっとも雄弁なコミュニケーションツールであり、共通言語の役割を果たしている。国際会計検定(BATIC)試験の問題は全て英語で行われるので、まずは重要な簿記用語 (Accounting Terminology) について全て英語でマスター出来るようにしたい。基本は米国式帳簿組織なので、これにはかなりの時間を割いて学習する。当然のことながら勘定科目と仕訳は全て英語で出来るようにしていきたい。

- 1 . Introduction(概要) 2 . Double-Entry Bookkeeping(複式簿記)
- , Accounting Equation(会計等式) 3 . Accounts(勘定科目), Journal Entries(仕訳), General Journal(一般仕訳帳)
- 4 . Purchase Transaction(仕入取引), Purchase Return and Allowance(仕入返品と仕入値引), Purchase Discount(仕入割引)
- 5 . Sales Transaction(売上取引), Sales Return and Allowance(売上返品と売上値引), Sales Discount(売上割引)
- 6 . Notes(手形), Interest Bearing Notes(利子付手形)
- 7 . Cash Receipt Journal(入金仕訳帳)
- 8 . Cash Payment Journal(出金仕訳帳)
- 9 . Sales Journal(売上仕訳帳)
- 10 . Purchase Journal(仕入仕訳帳)
- 11 . Ledger, Posting(転記), Controlling Accounts(統括勘定)
- 12 . Chart of Accounts(勘定科目表)
- 13 . Trial Balance(試算表) 14 . Limitation of Trial Balance (試算表の限界)

評価

出席 (30%) 及び期末試験 (70%) を総合し評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】 : 『BATIC (Subject 1) 公式テキスト』 東京商工会議所編

科目名	BATIC		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目の目的は、世界のトップ水準にあるといわれている米国の簿記と会計理論を学習して、その知識を習得することである。先ず米国式帳簿組織を理解することから始める。そしてそこから米国の会計理論の学習に入っていく。目標としてBATIC 検定アカウンタントレベル (Accountant Level) を狙う。

内容

企業が業種や規模の大小にかかわらず、何らかの形で海外の資本や企業とのかかわりをもたらすをえない時代になってきている。国境を越えて情報を届けるインターネットの普及がさらにこれを後押ししている。国際会計検定(BATIC)試験の問題は全て英語で行われるので、先ずは重要な簿記用語 (Accounting Terminology) について全て英語でマスター出来るようにしたい。基本は米国式帳簿組織なので、これにはかなりの時間を割いて学習する。当然のことながら勘定科目と仕訳は全て英語で出来るようにしていきたい。

- 1 . Columnar Cash Book (コラムナー現金出納帳) and Petty Cash Book (小口現金出納帳)
- 2 . Internal Control System (内部統制組織) and Voucher System (バウチャーシステム)
- 3 . Generally Accepted Accounting Principles (一般に公正妥当と認められた会計原則)
- 4 . Accounting Concepts (会計概念)
- 5 . Adjusting Entries (決算修正仕訳) - Prepaid Expenses(前払費用), Unearned Revenue(前受収益), Accrued Expenses(未払費用), Accrued Revenue(未収収益), Depreciation(減価償却)
- 6 . Closing Entries (締切仕訳)
- 7 . Retained Earnings (利益剰余金) and Dividends (配当)
- 8 . Post-Closing Trial Balance (締切後試算表)
- 9 . Six Steps in Preparing a Worksheet (精算表作成のための6ステップ)
- 10 . The Accounting Cycle (会計サイクル)
- 11 . Accounting for Inventory and Cost of Goods Sold (棚卸資産と売上原価の会計処理), Perpetual Inventory Method (継続記録法) and Periodic Inventory Method (棚卸計算法)
- 12 . Cash Basis Versus Accrual Basis of Accounting (現金主義に対する発生主義)
- 13 . Income Statement (損益計算書) 14 . Balance Sheet(貸借対照表)

評価

出席 (30%) 及び期末試験 (70%) を総合し評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】 : 『BATIC (Subject 1) 公式テキスト』 東京商工会議所編

科目名	BATIC		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目の目的は、世界のトップ水準にあるといわれている米国の会計理論を学習して、その知識を習得することである。先ず米国会計理論の構成および概念フレームワークを理解することから始める。目標としてBATIC 検定アカウンティング マネージャーレベル (Accounting Manager Level) を狙う。

内容

企業はGAAP (Generally Accepted Accounting Principles : 一般に公正妥当と認められた会計原則) にしたがって財務諸表を作成する。米国では、このGAAP の全体像をHouse of GAAP (GAAP の家) として表している。「GAAP の家」の土台となる最も権威があり強制力があるのは、FASB Standards and Interpretations, APB Opinions, AICPA Accounting Research Bulletins である。FASB Standards は、財務会計基準書、APB Opinionsは、APB 意見書、AICPA Accounting Research Bulletins は、AICPA 会計研究公報とそれぞれ呼ばれているものである。SEC (Securities and Exchange Commission: 証券取引委員会) は、会計基準を制定する権限を持っているが、現在はSEC がFASB (Financial Accounting Standards Board: 財務会計基準審議会) に基準づくりの権限を委譲することで、FASB が公表する基準に法的強制力を持たせている。Statements of Financial Accounting Concepts (財務会計概念書) は、FASB が基準書を公表するときのベースとなるものであり、Conceptual Framework (概念フレームワーク) と呼ばれている。これらの事を念頭に置きながら、下記の項目ごとに米国会計理論を学習していく。

- 1 . Financial Accounting & Reporting (財務報告)
- 2 . Financial Statements (財務諸表) 3 . Time Value of Money (時間価値)
- 4 . Cash (現金預金) 5 . Accounts Receivable (売掛債権)
- 6 . Revenue Recognition (収益認識) 7 . Inventories (棚卸資産)
- 8 . Property, Plant, & Equipment, Depreciation (有形固定資産および減価償却)
- 9 . Intangible Assets (無形固定資産) 10 . Goodwill (のれん)
- 11 . Investments Debt Securities & Equity Securities (投資: 負債証券と持分証券)
- 12 . Accounting for Bonds (社債の会計) 13 . Contingent Liabilities (偶発債務)
- 14 . Other Comprehensive Income (その他の包括利益)

評価

出席 (30%) 及び期末試験 (70%) を総合し評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】: 『BATIC (Subject 2) 公式テキスト』 東京商工会議所編

科目名	資産運用設計		
担当教員名	平野 昭昌		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

皆さんは、それぞれ「将来の夢や人生の目的 - ライフデザイン」を持っていることと思います。

「ライフデザイン」を実現するには、きちんとした生活設計が必要ですし、生活設計は経済的な基盤であるファイナンシャル・プランニング(F P)を抜きにしては机上の空論になりかねません。

この講座は、生活設計を支えるファイナンシャル・プランニング(F P)の基礎を勉強します。当面の目標としては、国家資格である「F P 3級技能士」(個人資産相談業務)資格の取得を目指します。そして、「資産運用設計」として、私たちの日常生活に関係の深い金融資産運用、不動産、タックスプランニング(税金)を取り上げます。

前期の「ライフ設計」と併せてF Pに必要な全6分野を勉強するので、できるだけ前期「ライフ設計」と後期本講座の両講座を受講することを勧めます。

内容

身近な事例とF P 3級技能士資格の試験問題等を例に取り上げながら、わかりやすく進めていきます。

1. 金融資産運用...預貯金、債券、株式、投資信託、外貨建金融商品など主な金融商品の知識と金融資産運用のポイント
2. 不動産...住宅の購入や賃貸借などに必要な不動産の見方と不動産関連の法律や契約の基礎知識
3. タックスプランニング...個人の所得税を中心に資産運用に関係する税金の常識

以上の3分野について、それぞれ3分の1ずつ(各5回)の割合で取り上げます。

評価

出席20点、レポート30点、ペーパーテスト50点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】レジュメを配布して使用します。

【参考図書】

『最短合格3級F P技能士』 きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センターF P技能検定研究会 編著(株式会社 きんざい)

『速習F P技能士2級・A F P合格テキスト』 (株)ポラーノ・コンサルティング編著(経済法令研究会)

科目名	ライフ設計		
担当教員名	深澤 泉		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

私たちが実りのある人生をおくるためには、健康、目標の実現、そしていくらのお金が必要であると言われています。幅広い視野で生活設計に必要なお金のプランを行っていくことを「ファイナンシャル・プランニング」と呼びます。私たちの寿命が延びて退職後の人生がどんどんと長くなっています。にもかかわらず、終身雇用制度が崩れ、公的年金の支給水準が低下しており、長期的な生活設計が非常に難しい時代になってきました。そのような状況の中で、豊かな生活をめざすためには、「ファイナンシャル・プランニング」の視点が欠かせません。

この講座では、まず生涯を通じた生活設計の立て方の基礎を学びます。そして住宅取得資金プラン、老後資金の準備、生命保険・損害保険を活用した保障の設計、相続対策といった、具体的なファイナンシャル・プランニングの基礎を学びます。

また、国家技能検定である「3級FP技能士」(個人資産相談業務)の合格をもうひとつの目標とします。

後期の「資産運用設計」と併せて受講することにより、ファイナンシャル・プランニングに必要な6分野の知識に触れることができるので、両講座を受講することをお勧めします。

内容

皆さんの生活に役立つ身近な事例を紹介しながら、ファイナンシャル・プランニングの基礎を学びます。

1. ライフプランニングと資金計画...生涯生活設計の基礎、住宅・教育・老後の資金設計、社会保険
2. リスク管理...生命保険・損害保険の商品知識、活用のしかた
3. 相続・事業承継...相続や贈与に関する法律や税金の基礎、相続問題への対策

以上3分野について、それぞれ3分の1ずつ講義していきます。

評価

出席20点、レポート30点、ペーパーテスト50点により評価を行い、60点以上で合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

『速習FP技能士2級・AFP合格テキスト(' 0 9 ~ 1 0 年版)』((株)ポラーノ・コンサルティング編著 経済法令研究会)

【推薦書】【参考図書】『ゼロから学ぶ!ファイナンシャル・プランニング講座』(きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著)

科目名	証券分析論		
担当教員名	吉成 正夫		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

2007年のサブプライム・ローン問題に端を発する金融危機で世界の経済・金融は大きく揺らぎました。そればかりではなく政治や社会全般にも大きな影響を与え、私たちの身の回りを変化させています。

社会人として仕事をしていく上でも、自分自身の生活設計を立てていくうえでも、世界の動きが自分たちの生活とどのように関わり、どこにリスクが潜んでいるかを理解することが大切です。

証券分析論は、株式や債券などの証券市況や、石油や金などの商品市況、円ドルなどの為替市況を通して海外や国内の経済金融の動きを学習し理解を深めていきます。

そのため、債券や株式の基本知識、証券市況の動き、投資家心理と証券価格の動きなどを学習します。

内容

1. 「証券分析論」の授業の進め方、
2. 証券市況に関係するデータの集め方、
3. 株式分析と投資、
4. 投資と投機、
5. 債券分析と投資、
6. 投資信託 (REIT, SRIを含む)、
7. 国際分散投資、
8. 証券投資と統計学の関係、
9. 証券投資と投資家心理の関係

前半は株式・債券の分析と投資の考え方を中心に進めていきます。

毎週の株式・債券・為替・商品などの市況をチェックして、ニュースと市況がどのように関連したかを学習します。市況の変化を通じて国内外の経済金融や為替・商品市況の変化が自分たちの生活に及ぼす影響を理解します。また収集したデータが相互にどのように関係しているかをチェックし、データ間の関係と変化がもつ意味を学習します。

後半で、投資のリスク、ポートフォリオ理論など証券分析の基礎を学習します。

評価

レポート等70点、出席30点で評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】教材はその都度配布します。

【参考図書】「暴走する資本主義」ロバート・ライシュ著、東洋経済新報社、2008

「資本主義はなぜ自壊したのか」中谷巖著、集英社、2008

「証券投資の思想革命」ピーター・バーンスタイン著、東洋経済新報社、1993

科目名	証券市場論		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	1	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本講義は野村証券冠講座であり、野村証券からゲスト講師を招き、授業を行う。

ビジネス情報コースの専門科目であり、証券市場に関する制度や仕組みについて学習する。

証券アナリスト試験などに対応するための基礎科目である。証券分析論、資産運用論、ライフ設計、金融論などと同様に金融市場について学習する。

内容

下記の内容について講義する。

- ・間接金融と直接金融
- ・債券投資の方法
- ・経済成長と金融の役割
- ・分散投資の方法
- ・証券、金融市場の現状
- ・投資信託
- ・資産運用の重要性
- ・投資銀行業務の経済的意義
- ・株式投資の方法

評価

学期末のテスト 100%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に指示する。

【推薦書】氏家純一編『日本の資本市場』東洋経済新報社 338.14/N

野村証券投資情報部編『証券投資の基礎』丸善 338.14/

科目名	金融論		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

金融の基礎的知識と理論を幅広く学習していきます。マクロの金融政策からミクロの金融理論、金融制度についても学習します。さらに話題の金融に関するテーマについても取り上げます。FP 技能士、証券アナリスト等の試験にも対応します。

内容

1. 金融とは何か
2. 信用創造のメカニズム
3. 金融政策と金融監督政策
4. 日本の企業経営と金融
5. バブル崩壊と銀行
6. サブプライムローン問題
7. 生命保険会社と損害保険会社
8. 証券会社と株取引
9. 為替変動と経済

評価

1. 出席30%
2. テスト70%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書 白川方明『現代の金融政策』日本経済新聞社、2008年。

科目名	ファイナンスの数理と実務		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1980年代以降、アメリカを中心に発展してきた金融工学について理解することを狙いとする。特に、先物取引やオプション取引などのデリバティブ商品などについて詳しく扱う。金融に内在するリスクの定量化には数理的な側面を避けて通れないのだが、パソコンを利用することで、あまり数学の世界に深入りしないでも、かなりの不確実性を数値にすることが可能となっている仕組みを理解する。また、さまざまな金融商品を学習し、その上で、株取引や為替取引のシミュレーションを経験する。

内容

- 0) ファイナンスとは何か
- 1) ファイナンスの統計処理基礎
- 2) 財務分析
- 3) 投資の考え方
- 4) 株式投資の実際
- 5) ポートフォリオの構成
- 6) 債券の計算
- 7) 先物とオプション
- 8) 証券分析の演習
- 9) 外国為替取引

評価

- 出席状況20%
- 2) 課題の提出状況50%
 - 3) レポート30%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業中に指示する。

科目名	企業情報システム 1 (経営学演習)		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ERP (統合基幹情報システム) パッケージソフトの世界標準となっているSAP 社、ならびに、SAP-R/3 の有力テンプレートであるリアルモデルを用いて行われる経営シミュレーション演習。演習 では「リアルモデルアカデミー初級」として、R/3 を実際に操作することによりERP を学ぶとともに、企業における仕事の実務というものを知る。そして、R/3 の運用により、取引の入力から貸借対照表や損益計算書が作成されるまでのプロセスを知ることにより、ビジネスの流れと簿記会計の関連性を理解する。

この演習は、R/3 が実際企業で使用されているのと同じ環境のもとで行なわれ、世界の先駆的実践経営シミュレーション演習である。受講者には初歩的な簿記、会計の知識が要求される。

内容

講義は総勘定元帳に関する会計取引を主体とし、以下のような内容について演習形式で行う。

1. SAP-R3 を用いてERP (統合基幹情報システム) に関する概要理解
2. R3 の操作演習
3. 財務管理 (FI) モジュールを使用し、各種会計取引の入力
4. 英文による上記会計処理演習
5. 損益計算書, 貸借対照表の作成
6. R/3 先進導入企業の事例研究

評価

評価方法は、授業への参加態度 (30 点)、毎回の演習問題の提出 (20 点)、期末試験 (50 点) による総合的な評価とし、60 点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の中でレジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	企業情報システム 2 (経営学演習)		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	ビジネス情報コース		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

ERP (統合基幹情報システム) パッケージソフトの世界標準となっているSAP 社、ならびに、SAP-R3 の有力テンプレートであるリアルモデルを用いて行われる経営シミュレーション演習。演習 では「リアルモデルアカデミー中級」として、購買管理 (MM)、生産管理 (PP)、販売管理 (SD)、管理会計 (CO)、プロジェクト会計 (PS) のモジュールを使用し、それぞれの業務内容や各業務における情報の流れについて学ぶ。これにより、経営学や企業戦略論等で学んだ会社経営についての疑似的体験学習を行う。

受講者には企業情報システム 1 の既習が望まれる。

内容

講義はロジスティックスに関する取引を主体に、以下のような内容を演習形式で行う。

1. 企業における業務システムの概要
2. 購買活動に関する業務
3. 生産活動に関する業務
4. 販売活動に関する業務
5. 管理会計と財務会計
6. 経営における組織管理と管理会計について
7. 英文による上記会計処理演習
8. R / 3 を操作するためのプログラミング基礎 等

評価

評価方法は、授業への参加態度 (20 点)、毎回の演習問題の提出 (20 点)、期末試験 (50 点) による総合的な評価により、60 点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の中で講義レジュメ、並びに、参考資料を配布する。

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。

インターンシップを活用し、職業活動なども視野に入れ、学生自らが職業適性や将来設計について考える貴重な機会としてほしい。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種を限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味から実習に対しては無報酬が原則。

2. 実施手順

ガイダンス - 5月上旬に実施されるガイダンスで詳細の説明を行う。参加希望者は必ず出席すること。

実施 - 夏季休暇期間中(前期)、または春季休暇期間中(後期)を中心に約2週間(実質10日、実労60時間以上)

研修を行う。尚、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員、または、担任教員に事前に相談すること。

申込 - キャリアセンターが受入先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受入先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出。

事前指導 - キャリアセンターがビジネスマナーなどの事前指導を行う。

担当教員 - 2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を原則行う。

3. 実施例

埼玉県庁、新座市役所、戸田市役所、日立製作所、リコー販売、オンワード樫山、蓼科情報、志正堂、
 広告社、プリンスホテル、ベルク 他

評価

学生 - 学習の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受入先 - 受入先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を徴求する。又、実施期間中に教員が受入先を訪問する巡回指導を原則行い、実施状況をとらえる。

以上、学生のレポート(40点)、受入先評価(40点)、教員による巡回指導の状況確認(20点)を総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	インターンシップ		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

インターンシップとは、学生が企業等において実習・研修的な就業体験をする制度のことである。大学における社会につながる人材育成の一環として、社会の変化や産業界のニーズに対応し、社会における能力発揮を目的とし、社会とのつながりを考えられる力を育成する。

インターンシップを活用し、職業活動なども視野に入れ、学生自らが職業適性や将来設計について考える貴重な機会としてほしい。

内容

1. 内容

特定企業での勤務体験をめざす「企業体験型」、特定の職種を限定した「職業体験型」、職種や企業にこだわらず職業体験を重視する「労働体験型」などがあり、自己の目的にあったものを行う。学生は企業でのインターンシップの学習プログラムにそって研修を行う。インターンシップはあくまで授業の一環として行われるものであり、アルバイトとは異なる。その意味から実習に対しては無報酬が原則。

2. 実施手順

ガイダンス - 5月上旬に実施されるガイダンスで詳細の説明を行う。参加希望者は必ず出席すること。

実施 - 夏季休暇期間中(前期)、または春季休暇期間中(後期)を中心に約2週間(実質10日、実労60時間以上)

研修を行う。尚、休暇期間以外のインターンシップに参加する際は、ゼミ教員、または、担任教員に事前に相談すること。

申込 - キャリアセンターが受入先の情報提供を行うが、学生が自己開拓で企業を探すことも可能。受入先が確定次第、「インターンシップ申込書」をキャリアセンターに提出。

事前指導 - キャリアセンターがビジネスマナーなどの事前指導を行う。

担当教員 - 2年生はクラス担当教員、3・4年生はゼミ担当教員が期間中に訪問し、巡回指導を原則行う。

3. 実施例

埼玉県庁、新座市役所、戸田市役所、日立製作所、リコー販売、オンワード樫山、蓼科情報、志正堂、
 広告社、プリンスホテル、ベルク 他

評価

学生 - 学習の成果をレポートにまとめる。インターンシップ終了後2週間以内に「科目追認願」を教務課に提出し、科目登録を行う。

受入先 - 受入先の担当責任者から実習内容の評価を記した「評価表」を徴求する。又、実施期間中に教員が受入先を訪問する巡回指導を原則行い、実施状況をとらえる。

以上、学生のレポート(40点)、受入先評価(40点)、教員による巡回指導の状況確認(20点)を総合的に判断して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学教育とその後の社会人としてのキャリア形成を支援するために、キャリアサポート では就職活動に関わる具体的な基礎力向上を目指した授業を行う。就職活動においてSPIや一般常識は重要な第一歩であり、それをクリアーすることは必要条件となる。こうした基礎知識を、解説を含めてわかりやすく学習し、基礎力向上につなげる。就職活動に必要な学習であるので、多くの学生が受講することが望まれる。

内容

1. SPI概要-SPIとは、SPIの考え方、使われ方など
2. 非言語分野の学習
 - 年齢算、仕事算、旅人算、流水算
 - グラフ・領域、資料解釈、空間把握
 - 順列組み合わせ、確率、n進法
 - 運動力学など
3. 言語分野の学習
 - 同意語、反対語、ことわざ・慣用句
 - 包含関係、行為関係、原料関係、用途関係
 - 複数の意味、長文問題など

各ステージで言語、非言語の両分野を事例にもとづき解説する。

評価

出席状況(60点)、小テスト(20点)、試験(20点)をもとに総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業時に紹介

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	岡本 卓、若山 皖一郎、設楽 優子、大友 由紀子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

大学時代は自分が社会とどのようなつながりを持つか、それを探る重要な時期である。社会と関わる力やイメージを、具体的に社会で活躍する人々の話を通して学んでいくこのキャリアサポート（社会人入門）では、社会人として様々な領域、立場で仕事や活動をする人々に登場してもらい、行き方や仕事とどのようにかかわり地域で、社会で、職場で活動している様子を語ってもらう。多様に活動する社会人たちの状況を知ることから、社会生活、キャリアについての自己イメージを高め、就職活動への積極的な取り組みにつなげると同時に、社会に進出する大学生としてのキャリアプランや職業イメージを高めることに役立てて欲しい。

内容

第1・2回

社会人として登壇する人々の具体的なプログラム紹介。同時に、話をより有効に聞くために、その辞典での自己分析や自分のキャリアプランを想定してみる。自分自身のウォーミングアップを行う。

第3回以降

様々な領域、立場で活動する社会人が登壇（下記例示。具体的なプログラムは第1回に紹介）。大学生時代、社会とのかかわり、職業や人との出会い、転職や結婚・子育てとの両立など、歩んできた行き方を語る。

- ・地域・国際ボランティアで活動する人
- ・情報に関して企業を起こした起業家
- ・ファミリー・フレンドリー企業で働く女性/仕事と家庭両立の制度利用
- ・SE職や販売・営業職として
- ・広告制作など企画部門に関わる
- ・企業管理職の立場から
- ・マスコミ関係者
- ・企業内の開発グループや事務職

第1回に行った自分のキャリアプランが社会人の話を聞いてどのように変化したかを捉える。

評価

出席状況（50点）、登壇者の話に基づく「気づきレポート」の提出（40点）、最後のレポート（10点）を総合して評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業時に紹介

科目名	キャリアサポート		
担当教員名	岡本 卓		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

マスメディア業界は情報提供のいっそうのスピードアップを求められる一方で、情報の濃密度や信頼性が問われ、企業間、業界間の生存競争が一層激しくなっている。換言すれば、マスメディア界も選別、淘汰の時代に入ったと言えるが、われわれ現代人は超情報化社会を生き抜くためにも、マスメディア業界の現実(実態)を知る必要がある。

その知識を身につけていくひとつの道は、まずは新聞、放送、出版、インターネット、広告等々といった各業界が今日の社会でどのように機能しているかを知ることから始まる。

また、マスメディア界は人的資源が財産であり、いかに可能性を秘めた人材をそろえているかが業界での勝ち負け、生き残りを左右する。この意味でマスメディア業界がどのような人材を求めているのか、その内部事情を知ることが不可欠である。

授業は、テレビ界出身の本学教員とマスメディアへの就職最前線事情に詳しい専門家を中心にして、マスメディア業界が抱える諸問題について解説するとともに、激変するマスメディア業界の現状と将来に関する最新情報を提供する「傾向と対策」の場と位置づける。

内容

1. ガイダンス
2. マスコミ業界の心得(メディア人としての義務と使命感を養う)
3. 報道(新聞)の変遷(新聞創刊期から現代までの歴史的諸問題)
4. 報道(出版)の変遷(週刊誌創刊期からクラス系雑誌誕生まで)
5. 報道(放送)の変遷(放送事業開局から地デジへの展開と発展)
6. 広告媒体戦略とIT(4大メディアのアプローチの相違と現状)
7. 女性誌ファッション(ローティーン誌からヤング誌トレンド考)
8. 女性誌クラス系分析(キャリア誌からシニア実用誌トレンド考)
9. 情報誌メディア戦略(消費者の視点からの市場マーケティング)
10. 芸能音楽業界の興亡(欧米と日本のショービジネス対比と連動)
11. 書籍文藝の企画立案(ベストセラー企画から新書ビジネスまで)
12. コミック新たな戦略(著作権とコンテンツビジネスの世界発信)
13. スポーツ報道と風俗(新聞・放送・雑誌各媒体の相違と問題点)

授業の中間点と終わりに2回、「傾向と対策」の筆記試験と口頭試問を行う。

評価

試験 = 60点、授業中の発表 = 20点、出席 = 20点 計100点 60点以上が合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考図書、参考情報は随時、授業中に紹介する。

注意：本授業は新聞、出版（書籍・雑誌）、放送（ラジオ・テレビ・番組制作会社）、インターネット、映画、音楽、広告など、いわゆるマスコミ業界への進出（＝就職）を本気で目指している学生を対象に行うものである。マスコミの就職試験を受けることを考えていない学生は受講対象とはしないので留意すること。

科目名	卒業研究		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大学での学習の集大成として卒業研究を完成させる。

内容

卒業研究作成のために中間報告を続ける。

評価

1 . 出席50% 2 . ゼミでの活動50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次の「演習」で習得した知識をもとに、各自の具体的な成果物を作成していく。

内容

研究テーマの設定や研究スケジュールなどを教員と相談しながら決定し、研究に必要なデータ収集等を行う。

評価

成果物や研究に対する取り組み姿勢等を総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。

科目名	卒業研究		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

4年間の集大成として卒業論文を完成する。3年次までに習得した知識、特に、演習で学んだアプローチ方法や分析手法を用いて身近なビジネスに関する問題から学術上や実務におけるビジネスや経営に関わる論点の中から、各自の興味に応じて設定したテーマに基づき研究し論文にまとめる。主体的に研究に取り組むことにより、自主性、積極性といった精神的態度を涵養すると同時に、自らの有する知識や技術を統合し応用する能力を育てる。

内容

3年次の演習において設定した各自の研究テーマに関し、文献や資料の収集・調査、また、インタビューを実施し、最終的な研究テーマや研究方法を決定する。テーマに関する論点に関し、必要なデータを収集し適切な解析方法を用いて分析する。さらに、自らの視点でテーマに関する現象解明、仮説構築、論理展開等を行い、論文にまとめる。各自の最終成果について概要のプレゼンテーションを行う。

評価

日頃の研究に対する取り組み姿勢(30点)、と論文(70点)により総合的評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習において学んだ知識と技術を生かし、実際に調査を実施する。自らテーマ・仮説の設定を行い、調査対象を特定して、調査項目ならびに調査票を作成する。一方分析のための入力フォーマットを決定し、データ入力から分析、まとめにいたる一連のプロセスを遂行することにより、これまで学んできた知識を実践に生かす力を養う。

内容

- 1 研究テーマ・組織の確定
- 2 仮説設定・調査対象の特定
- 3 テーマ・研究目的・仮説についてのディスカッション(1)
- 4 テーマ・研究目的・仮説についてのディスカッション(2)
- 5 既存データ・資料・文献の検討(1)
- 6 既存データ・資料・文献の検討(2)
- 7 調査項目作成のためのワーク(1)
- 8 調査項目作成のためのワーク(2)
- 9 調査表作成(1)
- 10 調査票作成(2)
- 11 調査票作成(3)
- 12 調査票作成(4)
- 13 調査票に関するディスカッション
- 14 予備調査準備
- 15 予備調査実施

評価

通常の活動状況、調査の実践状況、分析知識と技術等を総合して行う。

割合は活動状況30%、卒業論文50% プレゼンテーション20%とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』室淳子・石村貞夫著(東京書籍)

『よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方』鍵和田京子・石村貞夫著(東京図書)

科目名	卒業研究		
担当教員名	込江 雅彦		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究を完成させる。

内容

卒業研究に向けた助言。

評価

1 . 出席50% 2 . ゼミでの活動50%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示する。

科目名	卒業研究		
担当教員名	佐々木 顕		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次の「演習」で習得した知識をもとに、各自の具体的な成果物を作成していく。

内容

分析や構築などによって、最終的な成果物の作成に取り組み、研究過程で得られた知識を発表しレポートにまとめていく。

評価

成果物や取り組み姿勢などを総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

特に指定しない。

科目名	卒業研究		
担当教員名	長坂 敏史		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

4年間の集大成として卒業論文を完成する。3年次までに習得した知識、特に、演習で学んだアプローチ方法や分析手法を用いて身近なビジネスに関する問題から学術上や実務におけるビジネスや経営に関わる論点の中から、各自の興味に応じて設定したテーマに基づき研究し論文にまとめる。主体的に研究に取り組むことにより、自主性、積極性といった精神的態度を涵養すると同時に、自らの有する知識や技術を統合し応用する能力を育てる。

内容

3年次の演習 において設定した各自の研究テーマに関し、文献や資料の収集・調査、また、インタビューを実施し、最終的な研究テーマや研究方法を決定する。テーマに関する論点に関し、必要なデータを収集し適切な解析方法を用いて分析する。さらに、自らの視点でテーマに関する現象解明、仮説構築、論理展開等を行い、論文にまとめる。各自の最終成果について概要のプレゼンテーションを行う。

評価

日頃の研究に対する取り組み姿勢(30点)、と論文(70点)により総合的評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	卒業研究		
担当教員名	星野 敦子		
ナンバリング			
学 科	社会情報学部-ビジネス情報コース		
学 年	4	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

演習において学んだ知識と技術を生かし、実際に調査を実施する。自らテーマ・仮説の設定を行い、調査対象を特定して、調査項目ならびに調査票を作成する。一方分析のための入力フォーマットを決定し、データ入力から分析、まとめにいたる一連のプロセスを遂行することにより、これまで学んできた知識を実践に生かす力を養う。

内容

- 1 予備調査結果の基づく検討
- 2 調査票訂正
- 3 本調査の実施
- 4 変数管理・入力フォーマット作成
- 5 データ入力・クリーニング作業
- 6 調査データ分析(1)
- 7 調査データ分析(2)
- 8 調査データ分析(3)
- 9 調査データ分析(4)
- 10 論文作成(1)
- 11 論文作成(2)
- 12 論文作成(3)
- 13 発表資料・プレゼン作成(1)
- 14 発表資料・プレゼン作成(2)
- 15 発表

評価

通常の活動状況、調査の実践状況、分析知識と技術等を総合して行う。

割合は活動状況30%、卒業論文50% プレゼンテーション20%とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

『SPSSでやさしく学ぶ統計解析』室淳子・石村貞夫著(東京書籍)

『よくわかる卒論・修論のための統計処理の選び方』鍵和田京子・石村貞夫著(東京図書)